

# 第 6 次塩竈市長期総合計画 前期基本計画（素案）

1. 前期基本計画の策定にあたって
2. まちづくりの目標と方向性に基づく施策
3. しおがま未来創生プロジェクト
4. 推進体制と進行管理



## 1. 前期基本計画の策定にあたって

## 1) 計画期間

前期基本計画の計画期間は、令和4年度（2022年度）を初年度として、令和8年度（2026年度）を目標年度とします。

## 2) 計画の推進について

今後の本市のまちづくりにあたっては、国際社会の共通目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」や、人口減少の歯止めと活力ある日本社会を目指すための「地方創生」に向けた取組、市民まちづくりワークショップから生まれた「塩竈らしい100の暮らし」など、国際的な視点から市民の視点までを幅広く取り入れることが重要となっています。

「持続可能な開発目標（SDGs）」については、国においても、各種計画などの策定にSDGsの要素を最大限反映することを奨励しているほか、地方でのSDGsの推進が地方創生にも資するとして、国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2020改訂版）には、横断的目標の中にSDGsによる地方創生の推進が組み込まれています。

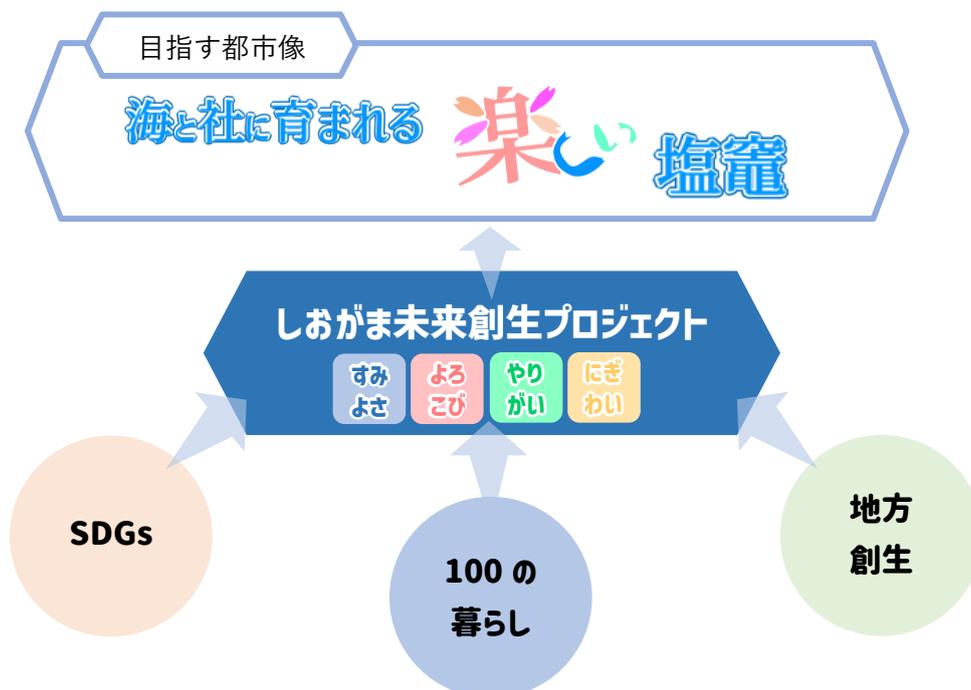
このことから、本市においても、基本構想との関連付け同様、SDGsの目指す17のゴールを前期基本計画の各施策分野や成果指標と関連付けることで、一体的に推進していきます。

また、人口減少と少子高齢化が近隣市町よりも急速に進む中、持続可能なまちであるためには、まずは、市民、その他多くの人に「いつまでも住みたい」、「住んでみたい」、「訪れてみたい」という想いを持ってもらう必要があります。

これらの想いを早期に生み出していくため、「地方創生」の取組を効果的に推進し、人口減少の克服とまちの魅力度の向上を図ります。

さらに、市民が描いた「塩竈らしい100の暮らし」は、『楽しみながらこれからも塩竈で暮らしていきたい』という市民の想いにあふれた、今後のまちづくりの重要な指針となるものです。

このような考え方にに基づき、基本計画においては、基本構想で定める8つのまちづくりの目標に基づく具体的施策とともに、それらを横断的な視点で機動的に取り組む「しおがま未来創生プロジェクト」を定め、『海と社に育まれる楽しい塩竈』の実現を目指します。



### 3) しおがま未来創生プロジェクト

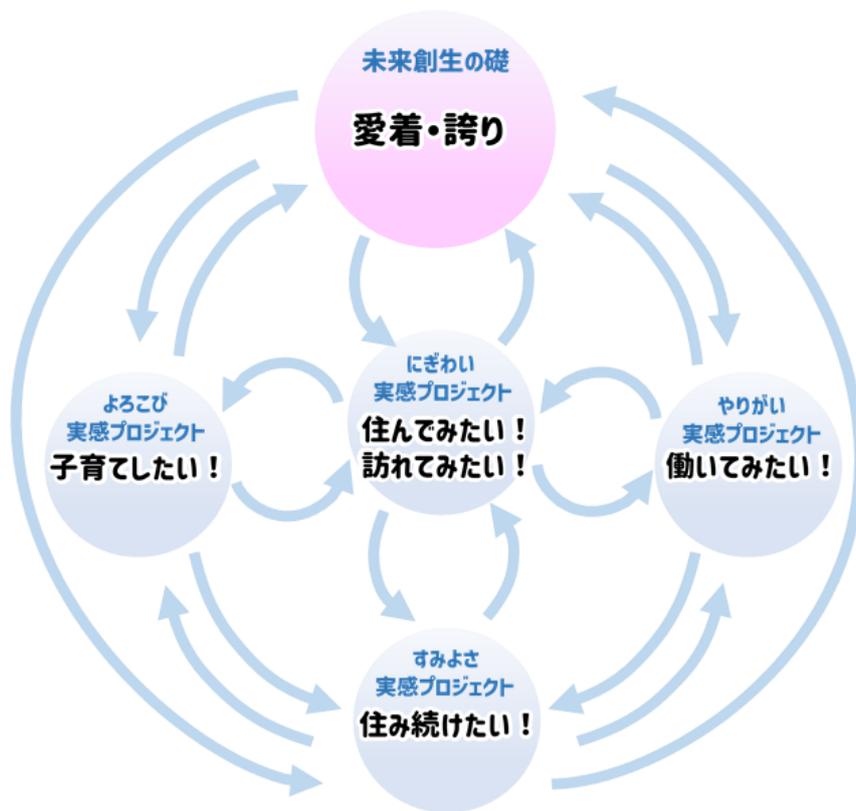
『しおがま未来創生プロジェクト』は、基本構想に掲げる目指す都市像『海と社に育まれる楽しい塩竈』の実現に向けて、前期基本計画の各施策を進めるにあたっての原動力となるものです。

各分野の特に重点的に推進する施策を掲げ、機動的・横断的に取り組むことにより、施策連携に伴う相乗効果を発現するとともに、同時並行的に好循環を生み出そうとするものです。

また、本プロジェクトは、市民が描いた「塩竈らしい 100 の暮らし」からのまちのイメージと国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2020改訂版）の基本目標を組み合わせ、塩竈での楽しい暮らしに直結する『すみよさ』、『よろこび』、『やりがい』、『にぎわい』を市民に実感いただき、未来創生の礎である本市への「愛着と誇り」を醸成することを目指すものです。

さらに、「持続可能な開発目標（SDGs）」とも関連付けて一体的に推進するとともに、本市の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置づけ、人口減少の克服と持続可能なまちづくりに向けた取組を進めるものです。

プロジェクトの推進による好循環のイメージ



※しおがま未来創生プロジェクトの詳細は 73 ページ以降に記載しています。



## 2. まちづくりの目標と方向性に基づく施策

※ しおがま未来創生プロジェクトと連動する施策や指標は各プロジェクトのマークで示しています。





# 第1章 子どもたちの笑い声があふれるまち（子ども）

---

## まちづくりの方向性

### 健やかに育つ・育てる環境づくり

- 第1節 「妊娠」から「子育て」までの切れ目ない支援体制の構築
- 第2節 未来を担う子どもを育むための学習環境の充実
- 第3節 地域全体で子育てや教育を支える体制の充実

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



16 平和と公正をすべての人に



## 第1節 「妊娠」から「子育て」までの切れ目ない支援体制の構築

### (1) 子どもと子育て世代への支援の充実

- ①子育て世代包括支援センター「にこサポ」などを中心として、妊娠期から子育て期にかかる全ての子どもの健康、発達、育児などの相談体制の充実を図り、ワンストップで切れ目ない支援を行います。 よこ  
こび
- ②妊産婦健康診査や新生児訪問、乳幼児健康診査等を実施するとともに、産後も母親が心身ともに健やかな生活を送れるよう、様々な機会を活用した育児相談を実施するなど、産後ケアの充実に努めます。 よこ  
こび
- ③中学生に向けて、子育ての大切さを知る体験学習に取り組み、命の尊さなどについて学ぶ機会を充実させます。 よこ  
こび
- ④子ども医療費や妊産婦健康診査、不妊治療にかかる費用等の助成を行い、子育てに要する経済的負担の軽減を図ります。 よこ  
こび

### (2) 働きながら安心して子育てができる環境づくり

- ①延長保育や乳児・低年齢児保育、一時預かり、病児保育などの充実を図り、多様化する就労形態に対応した保育サービスを提供します。 よこ  
こび
- ②教育的な視点を取り入れた学習や、地域交流・世代間交流など、放課後児童クラブの活動内容の充実による質の向上を図ります。 よこ  
こび
- ③子育て世代の労働時間の短縮や育児休業制度の普及に向けた意識啓発に努めるとともに、企業の子育て支援活動を促進します。 よこ  
こび

### (3) 全ての子どもたちの健やかな成長に向けた支援の充実

- ①誰一人取り残さない地域づくりを目指し、それぞれの家庭の状況に応じた相談や、生活の安定・自立に向けた支援を行います。 よこ  
こび
- ②関係機関との連携を図り、児童虐待やDVなど、家庭における問題の早期発見・早期対応に努めます。
- ③地域全体で子どもの権利についての理解を深め、「子どもにとって大切なことは何か」を常に念頭においた取組が進められるよう、普及啓発に努めます。

## 第2節 未来を担う子どもを育むための学習環境の充実

---

### (1) 個性を生かす学びや協同的な学びの充実

- ①「主体的・対話的で深い学び」と「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れ、一人も取り残すことなく「できる・わかる・思いやる」喜びが味わえる「協同的な学び」を充実させます。 よ  
こ  
び
- ②小学校と幼稚園・保育所との積極的な連携により、円滑に小学校生活に適應できる環境を整えます。 よ  
こ  
び
- ③小学校と中学校との連携を進め、「児童生徒間」や「教職員間」の様々な交流活動を実施します。 よ  
こ  
び
- ④学校、家庭、地域などの関係機関が連携し、いじめの未然防止と早期発見・迅速な対応に努めます。
- ⑤教育支援センター「コラソン」が中心となって、不登校の児童生徒などの居場所づくりや相談体制を充実させます。

### (2) 豊かな歴史文化とのふれあいと世界に目を向けた学びの推進

- ①豊かな歴史や文化とふれあう機会の充実を図り、子どもたちの郷土愛を育みます。 よ  
こ  
び
- ②多彩な食文化を生かした体験学習や地域の恵みを取り入れた給食の提供などにより食育を推進します。 よ  
こ  
び
- ③外国語指導助手（ALT）の活用による外国語教育や国際理解教育を充実させるとともに、海外との積極的な交流を推進します。

### (3) 安全・安心で快適な教育環境づくり

- ①ICT（情報通信技術）を効果的に活用できる教育環境整備に努め、情報を活用する力を育み、子どもたちの創造性や可能性を広げます。 よ  
こ  
び
- ②安全・安心で快適な学校生活が送れるよう、施設の良い環境整備に努めます。

## 第3節 地域全体で子育てや教育を支える体制の充実

---

### (1) 学校・家庭・地域が連携した子どもの育ちと子育て支援の充実

- ①子どもたちの健やかな成長に向けて、地域などが主体となった放課後の居場所づくりを支援するとともに、学校・家庭・地域と連携し、取組の充実に努めます。
- ②子どもの居場所や身近な遊び場の情報を広く提供し、利用促進を図ります。
- ③PTA活動や子ども会活動など、多様な担い手が地域で子どもたちを育む活動を支援します。

よ  
こ  
び

### (2) 子どもたちの安全確保体制の充実

- ①スクールガード・リーダーの配置など、子どもたちの安全確保に向けた取組を地域ぐるみで推進します。
- ②日常の中でできる「ながら見守り」を推進し、地域全体で子どもたちを見守る体制を構築します。

### (3) 地域と連携した家庭教育応援体制の充実

- ①家庭教育の重要性への理解を深めるため、普及啓発に努めるとともに、親自身が子育てや教育について学ぶ機会を提供します。
- ②家庭教育支援に関わる人材の育成に努め、地域全体で子育てを応援する体制をつくりま

## 成果指標

NO	指標名		現状値	目標値	備考
1	「子育て支援の充実」の満足度	よ こ び	21.5% (令和元年度)	25% (令和8年度)	市民アンケート (市の取組評価)
2	一時預かり保育利用数	よ こ び	119人 (令和2年度)	900人 (令和8年度)	
3	放課後児童クラブ待機児童数(年間最大人数)	よ こ び	5人 (令和2年度)	0人 (令和8年度)	
4	児童相談最終結件数		108件 (令和2年度)	108件 (令和8年度)	
5	「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合	よ こ び	①小学校 国語：85.8%(90.8%) 算数：84.7%(86.5%) ②中学校 国語：92.0%(90.3%) 数学：83.2%(83.6%) (令和2年度)	県平均を上回る (令和8年度)	宮城県児童生徒 学習意識等調査 ※( )内は仙台 市を除いた県平均
6	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒の割合		①小学校 95.5%(95.8%) ②中学校 97.6%(96.3%) (令和2年度)	県平均を上回る (令和8年度)	宮城県児童生徒 学習意識等調査 ※( )内は仙台 市を除いた県平均
7	「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合	よ こ び	①小学校 66.5%(67.5%) ②中学校 62.8%(56.9%) (令和2年度)	県平均を上回る (令和8年度)	宮城県児童生徒 学習意識等調査 ※( )内は仙台 市を除いた県平均
8	子どもほっとスペースづくり支援事業実施主体数	よ こ び	3主体	6主体 (令和8年度)	
9	地域等が主体の「放課後の居場所づくり」支援者数	よ こ び	- 今後取得予定 (令和3年度)	450人 (令和8年度)	
10	「家庭教育」に関する学習を行い、理解を深めた人の割合		- 今後取得予定 (令和3年度)	基準値を超える 数値とする (令和8年度)	生涯学習アンケート

## みんなで描いた「100の暮らし」

子どもの分野

子どもの分野では、幅広い年齢の子どもが親や地域の人の温かみに触れながら、豊かに成長していく暮らしが描かれました。



放課後、子供たちの  
笑い声が響く暮らし

放課後になると近所の公園や空き地に子供たちが集まり、子供だけの世界をつくって遊んでいる。近くを通る住民やお巡りさんが子供たちの様子を見守る。



町内会の盆踊りで  
子どもたちが跳ね躍る暮らし

各町内会では住民の手による夏祭りが毎年開催される。当日はお神輿や盆踊りに子供たちが元気に参加するので、運営にあたる親世代や祖母世代にも活気が生まれる。



地域みんなでたるみこしを作り、  
町内へ繰り出す暮らし

ある地区では毎年、地域住民が集まってたるみこしを作る。作り方はシニア世代から若者、子供たちへ受け継がれていく。ほかの地区でも、それぞれに、多世代が交流できるさまざまな慣習が根付いている。



運動部の学生が坂道で  
トレーニングする暮らし

夕方になると、急な坂道を利用してトレーニングをする学生たちの仲間を励ます声が響く。毎年この町からは、脚力を武器に全国で活躍する選手が現れる。



校庭で凧揚げをする暮らし

正月、学校の校庭には凧揚げの子供たちの姿が見られる。腕に覚えのある近所の大人たちが、凧の作り方や揚げ方のコツを教えながら子供たちの遊びを見守っている。



読み聞かせて  
絵本に親しむ暮らし

小さい子供が公民館や図書館に行くと、スタッフや保護者、ボランティアの中高生などが絵本の読み聞かせをしてくれる。塩竈の民話をもとにした紙芝居を鑑賞できる日もある。

※「みんなで描いた100の暮らし」は、「塩竈が塩竈らしくここでしかなし得ないかたちで続いていくこと」をテーマに、これからの塩竈での暮らしを考える市民まちづくりワークショップを全6回開催し、参加者のアイデアを「100の暮らし」にまとめたものです。



**子どもたちが  
まちの未来を語り合う暮らし**

地域や学校などで、町の現状や未来について子供たちが意見を言う機会がある。子供たちは意見を言うために町のことを学び、大人は子供たちの考えを知ることができる。



**体験を通じて  
塩竈の良さを知る暮らし**

子供たちが塩竈の文化、産業、職業などを体験して学べる場がある。さまざまな職業・立場の人が場の運営に関わり、職業・世代を超えた交流が生まれている。



**地元で働きながら  
子育てをする暮らし**

地域の保育施設には十分な定員数が確保されている。市内や近隣にはさまざまな職種があり、親たちは働きながら子育てしやすい。通勤に長い時間を奪われないので子どもとゆっくり過ごす時間も確保できる。



**勉強を口実に子どもたちが  
集まる暮らし**

放課後や休日、集会所や児童館に子どもたちが集まって教科書を広げている。教師経験のある住民や近所の大学生がボランティアで勉強を教えているが、いつも友人とひそひそ話をしている子もいる。



**図書館の学習スペースで  
集中して勉強する暮らし**

図書館の自習コーナーやコミュニティセンターの学習室など、中高生が勉強に集中できる場所がある。努力して目標を達成した先輩の姿を見た学生らは「勉強は自分でするもの」ということを学ぶ。



**子どもたちの通学を  
地域で見守る暮らし**

毎朝夕、通学中の子どもたちと地域住民との挨拶の音が聞こえる。通学路を走る車は常に子どもたちに注意して徐行している。夕方、家々の門灯や玄関灯は早めに点灯される。



**大人と中高生が同じテーマで  
意見を交わし合う暮らし**

カフェやコミュニティスペースでトークイベントが開催される。毎回テーマを決め、大人も中高生もそれぞれの視点で考えを述べ合う。会場は和やかな雰囲気です。イベント終了後は雑談に花が咲く。



**子どもたちが大人の知らない  
世界をもつ暮らし**

近所の子どもたちが、子どもだけの秘密の国を作って遊んでいる。小さい子をみんなで守ることは暗黙の掟。大人たちは子どもたちの世界を邪魔しないようにさりげなく見守っている。



## 第2章 みんなが生き生きしているまち（福祉）

---

### まちづくりの方向性

## 健康で安心して暮らせる地域づくり

- 第1節 みんなが生きがいを持ち安心して暮らせる支援体制の充実
- 第2節 健康増進と健康寿命の延伸による元気の創出
- 第3節 安心できる地域医療体制の充実



## 第1節 みんなが生きがいを持ち安心して暮らせる支援体制の充実

### (1) 高齢になってもいつまでもいきいきと暮らせる地域づくり

- ①高齢者の知識や経験を生かし、担い手として地域社会に参画できる環境をつくれます。 すみよさ
- ②地域や事業所、行政が連携し、多様な主体により日常生活の支援や介護予防サービスの提供に努めます。
- ③ひとり暮らし・二人暮らし高齢者世帯への支援の充実を図るとともに、在宅で介護をする家族へのきめ細かい支援を継続します。
- ④認知症に対する理解を深めるとともに、認知症高齢者やその家族が安心した暮らしを送れるよう支援します。

### (2) 障がいのある人もいきいきと暮らせる共生社会づくり

- ①福祉の心を育む教育やボランティアの育成支援などを通じた「心のバリアフリー」と効果的な福祉情報の提供や情報格差の是正など「情報のバリアフリー」を推進します。 すみよさ
- ②道路整備や公共施設の環境整備に努め、障がいのある人や配慮が必要な人も住みやすいまちづくりを推進します。
- ③障がいのある人の雇用について、企業へ積極的に働きかけるとともに、福祉施設と連携して就労支援の充実を図ります。 やりがい
- ④障がい福祉サービスの相談支援体制を強化するとともに、地域の実情に合わせた質と量を確保し、安定的なサービス提供に努めます。

### (3) 生活困窮者の自立と社会参加に向けた支援の充実

- ①生活困窮者の自立に向けて、一人一人の状況に応じたきめ細かな相談体制の充実に努めるとともに、関係機関と連携しながら就労支援や生活支援を強化します。 すみよさ
- ②貧困の連鎖の解消に向けて、経済的に困窮している家庭の子どもたちへ学習の機会を提供します。

### (4) 地域福祉の推進

- ①民生委員児童委員など地域活動の担い手との連携を深め、地域課題の早期発見と早期対応に取り組みます。
- ②福祉関係団体と連携し、地域で互いに助け合う体制の構築に努め、地域福祉の向上を図ります。

## 第2節 健康増進と健康寿命の延伸による元気の創出

### (1) からだの健康づくり

- ①健康についての知識の普及啓発に努めるとともに、楽しみながら継続して健康づくりに取り組める環境をつくれます。
- ②疾病の早期発見に向けて、生活習慣病や健(検)診についての情報発信を強化するとともに、「受診しやすい健(検)診」の環境整備に努めます。
- ③健康推進員と連携し、地域での健康活動を広げることで、まちぐるみでの健康づくりを推進します。

すみ  
よさ

### (2) こころの健康づくり

- ①ストレスと上手に向き合う方法をはじめとした、心の健康に関する知識の普及啓発に努めます。
- ②心の健康に関する講座や研修を通じて、見守りや支援を行う人材の育成に努めるとともに、相談支援体制を充実させます。

### (3) 食から始まる健康づくり

- ①食と健康への関心を高める取組を充実させ、子どもの時から調和のとれた食生活を送る習慣の定着を促進します。
- ②食事の楽しさを実感しながら、食を通じた学びや心身の健康維持につながる「共食」の機会を増やす取組を推進します。
- ③食に関わる人たちのネットワークを構築し、塩竈の食材や食文化を生かした体験学習活動などを協働して展開することにより、食育を推進します。

よろ  
こび

やり  
がい

## 第3節 安心できる地域医療体制の充実

---

### (1) 保健・医療・介護分野のネットワーク化の推進

- ①保健・医療・福祉サービスを切れ目なく提供できるよう、地域で適切なケアマネジメントが行われるよう環境整備を進めるとともに、多様な職種・機関との連携協働による地域包括支援ネットワークの構築を図ります。

### (2) 休日・夜間の安定的な医療提供

- ①医師会や歯科医師会、薬剤師会、近隣市町等との連携強化を図り、休日の急患診療や救急歯科診療の安定的な提供に努めます。

### (3) 市立病院を中心とした地域医療体制の充実

- ①住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、医療と介護・保健分野の連携強化を図り、市立病院を中心とした地域医療体制の充実を図ります。
- ②市立病院については、消化器系を中心とした急性期医療、在宅復帰を支援する回復期医療、将来大幅な増加が見込まれる在宅医療を柱に、人間ドックや検診業務など予防への取り組みも強化しながら、地域に寄り添う医療の提供に努めます。
- ③市立病院における安全で良質な医療の提供の継続に向けて、施設整備の検討を進めるとともに、不足が見込まれる医療スタッフの確保に努めます。

すみ  
よさ

## 成果指標

NO	指標名	現状値	目標値	備考
1	「社会的な活動」を行っている高齢者の割合 <span style="background-color: #ADD8E6; padding: 2px;">すみよさ</span>	42.6% (令和元年度)	62.4% (令和8年度)	
2	介護予防に資する「通いの場」への高齢者の参加者数及び割合	10.9% (令和元年度)	前年度より増加 (令和8年度)	「通いの場」：住民が主体となり集団で行う体操などの介護予防に資する活動
3	認知症サポーター養成講座受講者数	5,924人 (令和2年度)	7,232人 (令和8年度)	
4	「障がいのある人もない人も共に安心して暮らせる福祉のまちづくり条例」を知っている人の割合 <span style="background-color: #ADD8E6; padding: 2px;">すみよさ</span>	12.5% (令和2年度)	50.0% (令和8年度)	
5	施設就労者の一般就労への移行者数 <span style="background-color: #90EE90; padding: 2px;">やりがい</span>	10人 (令和元年度)	17人 (令和8年度)	
6	民生委員充足率	92.5% (令和元年度)	100% (令和8年度)	

みんなで描いた「100の暮らし」

福祉の分野では、お年寄りが子どもや地域の人たちとふれあう暮らしや障がいのある人も安心できる暮らし、みんなが健康で元気でいられる暮らしが描かれました。



祖父母が孫に手を引かれて坂道を登る暮らし

小さな子が祖父母の手を引いて歩く。足腰自慢の祖父母も「孫にはもう負けるね」と笑う。坂道の途中の茶店に孫と寄るのも楽しみ。道を走る車は歩行者優先を徹底している。



家族で毎日「しおがま 100 歳体操」を続ける暮らし

市民有志が専門家の助言を受け、子供も高齢者も一緒に取り組める楽しい体操を考案した。合理的に健康増進を図れるだけでなく、家族で取り組むことで互いの健康観察にも役立つ。



「買出しツアー」で商店街に買い物に行く暮らし

週に2～3回、近隣住民どうしが1台の車に乗り込んで商店街に買い物に行く。日常の買い物や用事を済ませられるので、運転免許を返納する高齢者が多くなった。



経験を生かして「ちょこボラ」で活躍する暮らし

個々の経験や特技を生かせることから誰でもできることまで、ボランティアに参加できる場面が豊富にある。誰しも、地域の役に立っていると思えると暮らしに張り合いが出る。



健康についての勉強会で情報交換する暮らし

近所のコミュニティスペースで定期的に健康や病気についての勉強会が開かれている。専門家による助言や参加者どうしの情報交換を通して、住民の保健意識は向上した。



まちを歩く高齢者を地域で見守る暮らし

地域を歩く高齢者を近所の人が見守っている。危険がないように声をかけ、必要に応じて家族や施設に連絡する。近くの交番の巡査も地域の人様子を把握し、頻繁に見回っている。



**働く人の健康を  
大事にする暮らし**

多くの事業者の間に、従業員が長く元気に働けることが自社の利益につながるという意識が浸透している。そのため従業員の体にかかる負担を軽減する職場環境が整えられている。



**シニア世代が短時間の  
アルバイトで小遣いを稼ぐ暮らし**

体に負担の少ない短時間の業務をシニア世代に割り振るしくみがあり、多くの人が就業して社会参加しながら小遣いを稼ぐ。生活にハリが出て元気な高齢者が多くなり、勤労世代の負担が軽くなる。



**障がいのある人が  
ゆっくり安全に道を歩く暮らし**

市内は自動車の往来が少なく、段差のない歩道や点字ブロックや音声案内も整備されており、高齢者や障がいのある人が歩きやすい。市民には、困っている人をサポートする意識が根づいている。



**働く人の健康を  
大事にする暮らし**

「シャッター通りからウェルネスの聖地へ」を合言葉に空き店舗の活用が進められた。麻雀、囲碁、将棋などを楽しめるスペースもでき、商店街がにぎやかになるとともに新たな雇用も生まれた。



**近くにかかりつけの  
町医者がある暮らし**

子どもが急に熱を出したので近くの医院に駆け込んだ。生まれた時から診てもらっているので安心して受診できた。祖父母は定期的な往診を受けていて、総合病院への入院を手配してもらったこともある。



**給食で地元の食材を日常的  
に味わう暮らし**

各校で作られる給食には塩竈産の魚介や野菜、塩・味噌・醤油などがふんだんに使われ、郷土学習の生きた教材になっている。生産者にとっては地域の子どもたちを育む営みが生きがいとなる。



**地元産食材を用いて  
「作って食べる」を楽しむ暮らし**

日常的に料理をする人が多くなり、地元食材に対する関心が高まった。牡蠣やホヤの殻をむく、めかぶを湯通しして刻むなどの下処理は、小さい頃から経験する機会が多く、誰もが自分で行える。



## 第3章 快適に住み続けられるまち（生活）

### まちづくりの方向性

# 安全で安心なコンパクトさを 生かした住環境づくり

- 第1節 災害に対するレジリエンス（しなやかな強さ）を持ち、安全・安心に生活できる都市環境づくり
- 第2節 コンパクトで生活サービスが充実した「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成を図ります。
- 第3節 豊かな自然と調和した環境にやさしい循環型社会の形成



### 第1節 災害に対するレジリエンス（しなやかな強さ）を持ち、 安全・安心に生活できる都市環境づくり

#### （1）市民一人一人の防災・減災意識の向上

- ①東日本大震災での教訓を生かし、一人一人が日ごろから災害を「我が事」として捉え、災害時の「自助・共助」による具体的な行動につながるよう、防災訓練や津波防災センターを活用した防災教育の充実に努めます。
- ②災害時の対応方法や地域ごとの災害リスクへの理解を深めるため、ハザードマップを充実させ、あらゆる機会を活用しながら普及啓発を行います。

すみ  
よさ

#### （2）地域防災力の強化

- ①自主防災組織の育成や消防団員の確保を通じて、市民との協働による防災力の向上に取り組むとともに、消防施設の整備を計画的に進め、資機材の適正な維持管理に努めます。
- ②木造住宅の耐震診断や耐震改修について、普及啓発と支援に努めるとともに、公共施設や上下水道施設についても計画的に耐震化を進めます。
- ③浸水に対する安全度の向上を図るため、10年に1度の雨量にも対応できるよう、雨水施設の計画的な整備と適切な維持管理に努めます。

すみ  
よさ

#### （3）犯罪が起こりにくいまちづくりの推進

- ①犯罪が起こりにくい環境整備に向けて、防犯協会をはじめとした関係機関との連携を強化するとともに、防犯カメラや防犯灯の整備に向けた支援を行います。
- ②空き家の実態把握に努めるとともに、危険と思われる空き家については所有者等に対し適切な管理を行うよう啓発を行います。
- ③交通安全施設の整備と適正な維持管理を行うとともに、交通事故防止に向けた普及啓発に努めます。
- ④悪質・巧妙化する特殊詐欺や消費者トラブルを未然に防ぐため、日頃から情報の収集や啓発に努め、相談しやすい体制を整えます。

すみ  
よさ

## 第2節 コンパクトで生活サービスが充実した

### 「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成

#### (1) 地域特性を生かした、安全・快適で魅力のある住環境の整備推進

- ①「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成に向けて、コンパクトシティや魅力ある景観など、本市の特性を最大限に生かした住環境の整備に努めます。すみ  
よさ  
にぎ  
わい
- ②公営住宅の長寿命化を推進し適切な維持管理に努めます。
- ③活用可能な空き家については、事業者と連携した空き家バンクの積極的な活用などにより、定住人口増加に向け、あらゆる視点で利活用を促進します。にぎ  
わい
- ④障がいのある人や高齢者向けの住宅のバリアフリー化を支援します。
- ⑤住環境の向上のため、地域と連携しながら狭あい道路の改善に努めます。

#### (2) 気軽に集える憩いの空間の創出

- ①伊保石公園については、幅広い年齢の子どもたちが遊べる場や眺望の魅力を生かせる場として、より市民に親しまれる環境の創出に努めます。よ  
ろ  
こ  
び
- ②点在する身近な公園については、地域や事業者との協働による維持管理に向けた体制を構築し、みんなが利用しやすい環境を整えます。

#### (3) 安全で安心な生活基盤の確保

- ①道路については、計画的な整備と維持管理に努めるとともに、バリアフリー化の促進や「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を目指した、安全で魅力のある歩道の整備に努めます。すみ  
よさ
- ②公共施設については、人口減少や少子高齢化による需要の変化に対応するため、長期的な視点から更新・統廃合・長寿命化などを計画的に実施します。すみ  
よさ
- ③安全でおいしい水をいつでも供給できるよう、良質な水の確保と将来にわたる水の安定供給に努めます。
- ④下水道（汚水）の未普及解消を進めるとともに、施設の適切な維持管理に努めます。

#### (4) 公共交通体系の充実強化

- ①バスやタクシー事業者と連携し、市内4駅を起点とした公共交通体系を充実させ、回遊性を高めるとともに、駅前広場の機能の維持に努めます。すみ  
よさ

## 第3節 豊かな自然と調和した環境にやさしい循環型社会の形成

---

### (1) 自然環境の保全と活用

- ①海辺のまちでの暮らしを最大限に享受できるよう、特別名勝松島をはじめとした貴重な自然景観や親水空間の保全に努めます。
- ②まちのみどりを守り、後世に伝えていくため、子どもたちの環境教育の充実や、市民・事業者の環境活動を支援します。

すみ  
よさ

### (2) 循環型社会の実現

- ①脱炭素社会の実現に向けて、市民・事業者と連携を図りながら、地域特性を生かした再生可能エネルギー等の活用について調査・研究を進めます。
- ②環境に配慮した社会資本整備や交通体系の推進など、環境に優しく負荷の少ない都市基盤の実現を図ります。
- ③廃棄物処理施設の適正な維持管理に努め、生活環境の清潔保持と環境保全、公衆衛生の向上を図ります。
- ④「3R（スリーアール）」活動について普及啓発を促進するとともに、市民・事業者による主体的な取り組みを支援します。

すみ  
よさ

## 成果指標

NO	指標名	現状値	目標値	備考
1	自主防災組織結成団体数 	83 団体 (令和 2 年度)	90 団体 (令和 8 年度)	
2	重要水道管路の耐震化率	58.1% (令和元年度)	64.8% (R 6 年度)	
3	公共下水道雨水施設整備 (10 年確率) の進捗率	27.2% (令和元年度)	30.0% (令和 8 年度)	
4	犯罪発生件数 	267 件 (令和元年度)	200 件以下 (令和 8 年度)	
5	交通事故 (人身事故) 発生 件数	115 件 (令和元年度)	85 件以下 (令和 8 年度)	
6	「魅力ある都市空間の形 成」満足度  	19.7% (令和元年度)	30.0% (令和 8 年度)	市民アンケート (市の取組評価)
7	空き家利活用の件数	1 件 (令和元年度)	100 件 (令和 8 年度) ※5 カ年累計	
8	伊保石公園休日来園者数 	15,000 人/年 (令和 2 年度)	32,000 人/年 (令和 8 年度)	
9	「交通体系の形成」満足度 	22.4% (令和元年度)	30% (令和 8 年度)	市民アンケート (市の取組評価)
10	1 人 1 日当たりの家庭ゴミ 排出量	721 g (令和元年度)	645g (令和 8 年度)	
11	一般廃棄物のリサイクル率	20.7% (令和元年度)	22.7% (令和 8 年度)	

## みんなで描いた「100の暮らし」

生活の  
分野

生活の分野では、地域の人たちが一緒になって防災に取り組む暮らしや、神社や海などの地域特性を生かした暮らし、コンパクトシティの利便性を生かして環境に配慮する暮らしが描かれました。



まちの空き家を生かす暮らし

街中に残る古い住居はきれいにリフォームされ、子育て世代の夫婦が住んでいる。近くの商店におつかに走る子供たちの姿が日常的に見られる。



おいしい水がある暮らし

水道から流れる良質な水を使って、自宅でおいしい食事。乾いた喉を水道水で潤す市民や、水を大切に使う市民が多くなった。



地域に花を植えて交流する暮らし

子どもたちが学校の授業で種をまいて苗をつくり、地域のシニア世代と協力して歩道のプランターや公園の花壇に植えた。作業を通して世代を超えた交流が生まれている。毎年、四季の花が地域を彩る。



防災訓練で地域住民の状況を共有する暮らし

年に2回、町内会単位で防災訓練が開催され、ほとんどの住民が参加する。訓練後にはみんなで鍋や豚汁を食べながら、災害時に支援が必要な住民の情報などを共有する。



海が見える公園でバーベキューを楽しむ暮らし

海が見える公園で、家族でバーベキュー。お腹がいっぱいになったら、芝生を走り回る子供たちを見守りながら、パパとママはゆっくりと時間を過ごす。



海が近くにある暮らし

海辺にはいつも、犬と散歩する人や釣りを楽しむ人の姿が見られる。一度は汚れた海の水も年々きれいになってきた。湾内に形成された干潟では子どもたちがカニやゴカイを見つけて歓声をあげる。



**鹽竈神社からの  
風景を眺める暮らし**

気分転換に鹽竈神社から千賀の浦（塩釜湾）の風景を眺める。神社にはほかにも、鹽竈神社博物館屋上からの風景や表参道を見上げる構図など、市民に人気の景観がある。



**夏にカブトムシを見つける暮らし**

夏、丘の上の自然公園ではカブトムシを見つけた子供たちが歓声をあげる。木々が茂る場所は市内に多くあり、時には住宅地の公園でカブトムシが見られることも。



**地図や地名の歴史を学び災害に備える暮らし**

古地図に描かれた古い海岸線や地名に残るヒントをもとに、地区ごとの災害リスクについて学ぶ。知見は「津波防災センター」に集約されるとともに市民に共有され、地域社会の防災力が高まった。



**道や橋を名前でもぶ暮らし**

市内の多くの道や歩道橋には「中藤通り」「楓坂」「かっぱ橋」など地域住民がつけた名前がある。住民どうしの会話で愛着をもって用いられるうちに、行政上の名称としても定着した。



**丘の上の空き家を  
改装したカフェで談笑する暮らし**

海が見える丘の上の空き家を地域のみみんなで改装してカフェを作った。コーヒーやケーキのほかお茶や和菓子もあり、日々、さまざまな世代の住民が坂を登って集まってきては談笑している。



**徒歩とバスと電車で  
移動する暮らし**

バスの本数が多く、市内や近隣市町への用事はバスと徒歩で済ませられる。市内に4つある駅は、市外へ出かける市民の足としてよく利用されている。自家用車を使う人が減って道が安全になった。



### まちづくりの方向性

## 活力に満ちた産業づくり

- 第1節 数多くの食の地域資源を生かした「みやぎの台所・しおがま」の創造
- 第2節 商工業者の持続的な経営安定や事業承継、新規創業への支援の充実による地域活力の向上
- 第3節 海とみなとを生かした活力づくりや新たな産業と若者も満足できる雇用の創出



## 第1節 数多くの地域資源を生かした「みやぎの台所・しおがま」の創造

### (1) 多彩な地域資源を生かした食のまちづくり

- ①食に関わる様々な産業の連携促進により、食のブランド力向上と新たな地域資源の創出に努め、「食による産業振興」を図ります。 やりがい
- ②安全安心で魅力のある食の提供に向けて、衛生管理や環境に配慮した生産などに関する取組を支援します。 やりがい
- ③地元での消費拡大に向けて、様々な場面で、市民が地元の食や食文化に触れる機会を提供します。 やりがい
- ④事業者や関係団体と連携し、訪れる人々が、本市の多彩な食や食文化に関心を持ち「また来たい。」と思われる取組を推進します。
- ⑤食に関わる人たちのネットワークを構築し、塩竈の食材や食文化を生かした体験学習活動などを協働して展開することにより、食育を推進します。(再掲)

### (2) 水産品・水産加工品の流通拡大

- ①魚市場においては、衛生管理を徹底しながら、積極的な漁船誘致活動を行うとともに、新たな取り扱い魚種の拡大を推進するなど、水揚げ増進に努めます。 やりがい
- ②水産品・水産加工品を活用した、新たな「食」の提案につながる取組の推進や、事業者・大学などと連携した魚食に関する体験機会の充実により、地元からの消費拡大を図ります。 やりがい
- ③水産品・水産加工品の流通拡大に向けて、さまざまな商談機会を活用した商材の情報発信による国内販路の回復や、海外の食文化に適合した商品開発などによる輸出商流の確立を支援します。 やりがい

## 第2節 商工業者の持続的な経営安定や事業承継、 新規創業への支援の充実による地域活力の向上

---

### (1) 「チャレンジしたくなるまち」に向けた魅力向上

- ①若い世代を中心に、誰もがチャレンジしたくなる創業支援体制の構築を図ります。
- ②中小企業が持つ貴重な技術やノウハウを引き継ぐため、事業承継に係る普及啓発やサポートに努めます。

やり  
がい

やり  
がい

### (2) 地域経済の基盤強化

- ①中小企業の経営安定と経営基盤強化のため、商業関係団体や金融機関等と連携した支援の充実に努めます。

### (3) 個店の魅力がつながる商店街づくり

- ①個店の魅力を創造する取組や、地域や個店が連携して門前町の風情を生かすなど、それぞれの商店街の魅力を高める取組を支援し、市民から親しまれる商店街づくりに努めます。

やり  
がい

## 第3節 海とみなとを生かした活力づくりや

### 新たな産業と若者も満足できる雇用の創出

---

#### (1) 海・みなとへの愛着づくりと塩釜港区の利活用

- ① マリンゲート塩釜や千賀の浦緑地、北浜緑地公園などを活用した海辺に親しむ市民主体の取組を支援し、海とみなとへの愛着を育みます。 
- ② 塩釜港区の機能強化の促進に向けて、国・県に対して港湾計画に基づく施設整備の働きかけに努めます。
- ③ 塩釜港区の立地の優位性や本市独自の優遇制度など、ポートセールスに取り組み、入港船舶や貨物量の増加を図ります。 

#### (2) 地域特性や地域課題を踏まえた新たな産業共創

- ① 本市の歴史・文化や自然、立地の優位性など、地域特性をもつ遊休地の情報を積極的に発信し、若者も魅力を感じる企業の誘致に努めます。 
- ② 大学や企業との積極的な連携により、地域課題解決に向けた実証実験の場の提供などを通じて、新たな産業の種を共に創ります。 
- ③ 自然環境やコンパクトシティの利便性を生かしたりリモートワークの環境整備やサテライトオフィスの誘致に努めます。 

## 成果指標

NO	指標名		現状値	目標値	備考
1	鯉・鮪一本釣漁船における冷凍カツオ・マグロの水揚量の割合	やりがい	14.5% (令和2年度)	20.0% (令和8年度)	
2	地元の食材を利用したイベント回数	やりがい	5回 (令和2年度)	8回 (令和8年度)	
3	塩竈産品販路拡大支援事業による水産品輸出入出荷量	やりがい	2,289kg (令和2年度)	3,433 kg (令和8年度)	
4	創業支援等事業計画に基づく新規創業者数	やりがい	—	40件 (令和8年度) ※5カ年累計	

## みんなで描いた「100の暮らし」

### 産業の分野

産業の分野では、子どもたちが地元の食材をつかって楽しく学ぶ姿や、新しい商品を共同で生み出す姿、仲卸市場や地元の商店で楽しく買い物をする姿など、活気のある暮らしが描かれました。



近所に行きつけの店がある暮らし

地域には個人経営のさまざまな店があるので、たいていの買い物は徒歩圏内で済ませている。店主も客も同じ地域の住民。毎日の買い物の中で信頼関係が生まれている。



魚市場で干物作りを体験する暮らし

魚市場の調理室で定期的に行われる市民向け料理教室で、市内の加工業者が講師となって旬の魚介を使った料理を作る。魚市場職員の案内でセリを見学し、流通についても学ぶ。



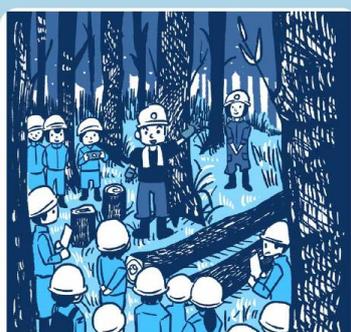
かまぼこ作りを通して魚や水産業について学ぶ暮らし

小中学校では魚を釣ってかまぼこを作る体験学習が定番。漁師や水産加工業者、研究施設の職員らが講師となり、魚のさばき方、調理法のほか、海洋環境や水産資源の現状について学ぶ。



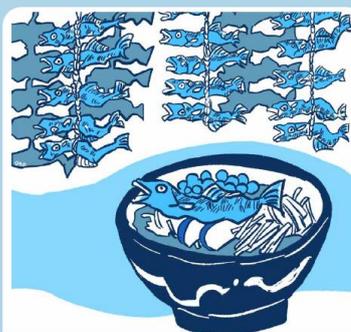
人々が行き交う駅前で購入物や食事を楽しむ暮らし

駅前には地元商品を扱う店や塩竈の食材を使った食べ物を提供する店が並び、いつも多くの人が行き交う。店と客とのコミュニケーションの中で新たな商品や料理が生まれることも多い。



漁師や農家・林業家の仕事に肌で触れる暮らし

市内や近隣市町の漁師、農家、林業家の協力を得て、漁業・農林業体験をする。近隣市町との連携によって、子供たちは地域の産業について幅広く知ることができる。



自分で釣ったハゼで正月の雑煮を作る暮らし

正月の雑煮のダニに「焼きハゼ」を使う家庭が多い。秋になると、各家庭ではハゼを焼いて干す光景が見られる。ハゼは自分で釣る人が多く、たくさん釣れたら近所におすそ分けする。



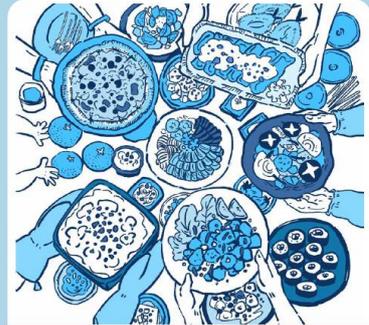
**桜味のスイーツを味わう暮らし**

市内の菓子店が共同開発した桜味のスイーツが塩竈の新名物となり、市民にとって春を待つ楽しみが一つ増えた。市内でしか買えないため、市外に住む友人に自慢げに送るのも楽しみ。



**塩竈のソウルフードを伝える暮らし**

塩竈汁や焼きガキ、地元産かまぼこを使った塩竈おでんなどが市民のソウルフードとして定着した。家庭でも地域の集まりでも食べる機会が多く、大人子どもも大喜びする。



**地元産食材を使った郷土料理が食卓に並び暮らし**

日々の食卓には地場産の魚介や野菜などを使った料理が並び、老舗酒蔵の地酒で晩酌をする。ご近所の集まりで「晩のおかず」を持ち寄る機会が多く、人気のおかずが郷土料理として定着した。



**勤めながら小商いを始める暮らし**

会社に勤めながら、農林漁業や作家活動、加工食品製造など趣味や特技を生かせる分野で「小商い」を始めて副収入を得る。副業が軌道に乗り、会社を辞めて本業にする人も多い。



**塩竈で水揚げされた魚介を仲卸市場で選ぶ暮らし**

魚市場にはマグロ以外にもさまざまな魚介が揚がる。仲卸市場にはそれらの魚介のほか果実、精肉などが並ぶ。仲卸市場での買い物の醍醐味は、食材の匂やおいしい食べ方を店の人に聞けること。



**地元産かまぼこを使った「塩竈流おでん」を楽しむ暮らし**

市内の食品加工業者が知恵を出し合って完成した「塩竈流おでん」が、地元の味として定着した。市内の飲食店で「おでん」を注文すると「塩竈流おでん」が出てくるのが普通。



**毎週開かれる市に手作りを持ち寄る暮らし**

地域の広場でフリーマーケット形式の市が毎週開かれ、住民らが手作りの食品や小物などを販売する。物々交換での取引もさかん。楽器演奏の指導などサービスを売る人もいる。



**初デートで本町を歩く暮らし**

初めてのデートで本町を歩き、少し背伸びをしてシックなカフェでケーキを食べる。初々しい2人をカフェ店主も町の人もあたたかく見守っている。次のデートでは浦戸に行く約束をする。



**いいことがあると寿司で祝う暮らし**

誕生会や結婚記念日など、祝い事で寿司を食べる家庭が多い。寿司店はお祝い用の華やかな盛り付けを工夫している。地域の祭りでは長い鉄火巻きをみんなで作って楽しむ。



### まちづくりの方向性

## 観光交流による賑わいづくり

第1節 地域資源を最大限活用した観光メニューの創出

第2節 観光ブランドのおもてなし体制の充実・広域連携による  
交流人口の拡大

8 働きがいも  
経済成長も



12 つくる責任  
つかう責任



## 第1節 地域資源を最大限活用した観光メニューの創出

### (1) “塩竈でしか味わえない”魅力ある観光メニューの創出

- ①「鹽竈神社と門前町地区」、「ベイエリアとマリゲート地区」、「市場地区」、「浦戸諸島」の4つの観光拠点を中心に、歴史や文化、食などの地域資源をつなぎ合わせたストーリー性のある観光メニューの創出を図ります。 にぎ  
わい
- ②観光客のニーズや動向など、あらゆる調査と分析を行うマーケティングの視点での観光メニュー創出に努めます。
- ③事業者や関係団体と連携し、訪れる人々が本市の多彩な食や食文化に関心を持ち、「また来たい。」と思われる取組を推進します。(再掲) にぎ  
わい

### (2) 観光拠点の魅力の磨き上げと回遊性の向上

- ①「鹽竈神社と門前町地区」については、これまでの歴史や文化を物語として発信するとともに、商店街などの関係団体と連携しながら、特色ある体験、食事、買い物など、さまざまな活動を楽しんでいただける環境を整えます。 にぎ  
わい
- ②「ベイエリアとマリゲート地区」については、広域周遊型の松島湾観光の起点としての役割に加えて、緑地や公園とマリゲートを活用し、海辺に親しめるエリアとして磨き上げを行います。 にぎ  
わい
- ③「市場地区」については、魚市場と水産物仲卸市場のつながりを深め、水産品や水産加工品を「食べて」「買って」「体験」できる観光拠点として強化します。 にぎ  
わい
- ④「浦戸諸島」については、島のよさや島の暮らしを丸ごと体験できる滞在・体験型のメニューを充実させ、個人旅行や教育旅行の受入態勢を整えます。 にぎ  
わい
- ⑤観光拠点間の回遊性を高めるため、周遊バスや船の運行などによるネットワークを構築します。

## 第2節 塩竈ブランドの確立とおもてなし体制の充実・

### 広域連携による交流人口の拡大

---

#### (1) 塩竈ブランドの確立

- ①観光振興コンセプト『千年の歴史と美食にであう港町・塩竈』を推進し、歴史や食を生かした塩竈ブランドを確立し、統一したイメージで全国・世界に発信します。



#### (2) 戦略的なプロモーションの推進

- ①観光情報の発信手段の多様化と内容の充実を図り、ターゲットを意識した情報発信に取り組みます。
- ②動画の活用などによるマスメディア向け PR 素材の充実や、鉄道・航空などの交通機関と連携した情報発信に取り組みます。

#### (3) 笑顔でのおもてなしとシビックプライドの醸成

- ①観光ガイドボランティアとの連携とともに、よりテーマ性のある有料ガイドや、観光についての企画と事業推進を担う観光プランナーなどの人材育成、関係団体との連携強化を図ります。
- ②観光案内所や各観光拠点の受入態勢の充実を図ります。



#### (4) つながりの強化による発信力の向上

- ①県や関係自治体、観光地域づくり法人（DMO）等との連携により発信力を高め、関係人口と交流人口の創出を図ります。

## 成果指標

NO	指標名	現状値	目標値	備考
1	観光客入込数 	236.9 万人 (令和元年)	236.9 万人 (令和 8 年)	
2	観光消費額 (日帰り単価) 	3,920 円 (平成 29 年)	4,100 円 (令和 8 年)	
3	観光案内所の利用者数 	15,228 人 (令和元年度)	15,228 人 (令和 8 年度)	

## みんなで描いた「100の暮らし」

交流の  
分野

交流の分野では、市民や観光客が家族や仲間たちと、年間を通して季節ごとの塩竈の魅力を味わう暮らしが描かれました。



鹽竈神社の桜を愛でる暮らし

鹽竈神社で、桜の花を眺めながら歩く。国の天然記念物・シオガマザクラをはじめさまざまな種類の桜があるので花を楽しめる期間が長い。境内の茶店で団子を食べるのも楽しみ。



「食」をテーマにした  
祭りで近隣市町と交流する暮らし

年に数回、魚市場や仲卸市場、神社周辺などで食をテーマにした祭りが開かれる。近隣市町でとれた野菜や米、果物などの作物や、各地域の名物料理が集まり、広域的な交流の場となる。



海の恵みに感謝して大漁旗を  
掲げる暮らし

1年に1回、海の恵みに感謝する祭りが開かれる。港や市場には大漁旗が翻り、市民は海産物をお腹いっぱい食べる。地元酒蔵による振る舞い酒を楽しみにしている人も多い。



船で行われる  
パーティーに参加する暮らし

松島湾を遊覧する船上でパーティーが催される。参加者は景色を眺めつつ、海産物やお酒など塩竈の味を楽しみながら会話を弾ませる。仕事や恋愛のパートナーに出会う人も多い。



音楽イベントに出演する暮らし

「GAMA ROCK FES」は秋の音楽イベントとして定着した。ほかにも駅前広場や市内のホールなどで音楽イベントが毎月のように開催され、多くの市民が出演者や観客として楽しむ。



門前町の風情を感じる暮らし

鹽竈神社周辺では古い建物が店舗などとして活用され、門前町の風情がたどる街並みが形成されている。御釜神社や道端のベンチには談笑する人の姿が見られる。



**季節の地酒と肴を楽しむ暮らし**

市内の酒蔵が季節ごとに発売する酒は塩竈の風物詩のひとつとなり、毎年、辛党の市民が待ちわびる。飲食店では、地元の食材を使い、地に合わせた季節の料理を提供している。



**初詣やお祭りの日に屋台で食べ歩く暮らし**

大晦日・元日や、神社の祭りの日には、裏坂周辺に並ぶ食べ物や遊戯などの屋台でお祝い・お祭り気分を満喫。一帯は親子連れや仲間と集まった小中高生らで賑わっている。



**地域の魅力を撮影して発信する暮らし**

市内在住のカメラマンが地域の祭りや名所、特産品、話題の料理やスイーツなどを撮影し、市内外に発信している。地域の魅力を撮影した写真のコンテストも毎年開催されている。



**海で遊ぶ暮らし**

市内外からたくさんの方が訪れ、釣り、海水浴、シーカヤックやSUP、海辺でのバーベキューなど、海での遊びを楽しむ。海辺が活性化するにつれ、多くの雇用も生まれた。



**子どもたちが塩竈の魅力を人に伝える暮らし**

塩竈の歴史・文化に関心を持って勉強会などで学ぶ市民が多く、子どもたちも学校や地域で町の魅力を知り人に伝える学習活動をしている。観光ガイドのボランティアに参加する中高生が多い。



**松尾芭蕉の足跡をたどる暮らし**

松尾芭蕉が歩いた道を散策するウォーキングツアーに参加する。インストラクターによる解説を聞きながら歩くことで、多賀城・松島など周辺地域との文化的つながりを感じられる。

## 第6章 日常に彩りがあるまち（文化）

---

### まちづくりの方向性

## 生涯にわたって学びあえる風土づくり

- 第1節 豊かな歴史やこれまで培ってきた文化を未来へつなぐ取組の充実
- 第2節 生活にうるおいを与える生涯学習・生涯スポーツの展開
- 第3節 芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成

### 第1節 豊かな歴史やこれまで培ってきた文化を未来へつなぐ取組の充実

#### (1) 塩竈に息づく歴史・文化の保存

- ①国指定重要文化財の鹽竈神社や特別名勝松島をはじめとした貴重な文化財を市民の共有財産として守ります。 すみよさ
- ②市内に残る貴重な歴史的建造物の保存や歴史資料の収集に努め、まちづくりに生かします。 にぎわい
- ③地域の文化や芸能を継承する団体を支援するとともに、様々な活動で連携を図ります。

#### (2) 歴史・文化の活用によるシビックプライドの醸成

- ①講演会や講座等の充実を図り、幅広い年代の市民が、塩竈の人、歴史、文化、自然について学ぶ機会を提供します。 すみよさ
- ②タイムシップ塩竈や Web 博物館「文化の港シオーモ」の充実を図るとともに、郷土愛を育む「塩竈学」の取組を推進し、本市の歴史や文化の魅力を市内外に積極的に発信します。
- ③文化財、歴史的建造物、食文化などの魅力を生かした交流を推進します。 にぎわい

## 第2節 生活にうるおいを与える生涯学習・生涯スポーツの展開

---

### (1) 生涯にわたって楽しく学べる環境づくり

- ①一人一人の主体的な学びを大切にしながら、多様な方式や様々なメニューによる学習機会の提供に努めます。
- ②学びから学びあいへとつながるよう、学習団体の育成とネットワークづくりを推進しながら、学びの成果を発揮できる環境を作ります。
- ③だれでも気軽に生涯学習活動に参加できるよう、生涯学習施設の環境整備に努めます。

すみ  
よさ

### (2) 生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくり

- ①生涯にわたって健康な生活を送れるよう、幼児期・少年期から様々なスポーツの機会を提供するとともに、一人一人のニーズに沿ったスポーツに親しむ機会を提供します。
- ②スポーツ施設の環境整備を図るとともに、効率的・効果的な管理運営に努めます。

すみ  
よさ

### (3) 生きがい創出と地域の活力向上

- ①生涯学習やスポーツを通じたボランティア育成などにより、市民の生きがい創出を図り、地域の活力向上に努めます。

## 第3節 芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成

---

### (1) 創造性豊かな人材育成への支援

- ①市民交流センターや杉村惇美術館などの文化施設を中心に、子どもの頃から良質な文化・芸術に触れる機会を提供することで、創造性豊かな人材の育成に努めます。
- ②地域で学び続けるために、社会教育関係団体、自主サークルなどの育成・支援を図ります。



### (2) スポーツを通じた人材育成への支援

- ①プロスポーツチームとの連携強化や地域のスポーツ団体への支援の充実により、スポーツを通じた人材育成に努めます。



### (3) 新しい文化の創造や発信を促進

- ①一流のアーティストやアスリートに触れる機会の提供や市民主体の取組を支援し、新たな文化の創造につなげます。
- ②市民交流センター、生涯学習センター、杉村惇美術館などの多彩な取組を市内外に広く発信します。

## 成果指標

NO	指標名		現状値	目標値	備考
1	「歴史の継承と文化の振興」満足度	すみよさ	24.3% (令和元年度)	基準値を超える 数値とする (令和8年度)	市民アンケート (市の取組評価)
2	「ニーズにあった学習機会」満足度	すみよさ	－ 今後取得予定 (令和3年度)	基準値を超える 数値とする (令和8年度)	生涯学習アンケート
3	市民図書館満足度	すみよさ	68.5% (令和2年度)	80%以上 (令和8年度)	市民図書館利用者 アンケート
4	市民図書館でのボランティア団体の年間活動数		41件 (令和2年度)	基準値から 増加させていく (令和8年度)	
5	市民図書館の年間貸出者数		45,359人 (H30年度)	49,894人 (令和8年度)	
6	「スポーツ機会の提供」満足度	すみよさ	－ 今後取得予定 (令和3年度)	基準値を超える 数値とする (令和8年度)	生涯学習アンケート
7	スポーツ全国大会等出場者褒賞金交付者数		8人 (令和3年度)	30人 (令和8年度)	
8	生涯学習施設と事業に対する満足度	よるこび	－ 今後取得予定 (令和3年度)	基準値を超える 数値とする (令和8年度)	生涯学習アンケート
9	市民交流センター・遊ホールの年間利用者数	よるこび	47,892人 (H30年度)	52,681人 (令和8年度)	
10	市民交流センター・遊ホールの事業満足度	よるこび	94.4% (令和2年度)	100%に近づける (令和8年度)	事業後の来場者アンケート、

みんなで描いた「100の暮らし」

文化の分野では、市民が日々の生活の中で、豊かな歴史や文化に親しみ、芸術などの創造的な活動に関わり、表現し合う暮らしが描かれました。



鹽竈神社に見守られながら、  
鹽竈神社を見守る暮らし

多くの市民が常に鹽竈神社の加護を感じ、初詣、結婚、七五三、合格祈願などの節目には挨拶に訪れる。神社の営みや環境を維持するのも市民の力によるところが大きい。



点在する「新旧ランドマーク」に  
親しむ暮らし

寺社、碑、老舗などの歴史的な建造物と、壱番館やエスパのような近代的で機能的な建物が調和した街並みは、古いものと新しいものを柔軟に取り入れるこの町の文化を象徴している。



退職後、  
学校に通って学び直す暮らし

地域の小中学校で、教養を深めたい人や資格取得を目指す大人のための講座が開かれ、多くの中高年が通う。子どもたちと一緒に学び、交流できる講座もある。



文化財を舞台に  
文化を紡ぐ暮らし

勝画楼、旧えびや旅館、杉村惇美術館など、地域の歴史を物語る建築物は市民の手によって大切に保存されている。人々が学び、交流する場として活用され、新たな文化が紡がれている。



街角のライブパフォーマンスに  
足を止める暮らし

駅前広場や公園などでは歌や楽器演奏、大道芸などのパフォーマンスが日常的に繰り広げられ、街に笑顔と活気をもたらす。鹽竈のストリートは多くの有名アーティストを輩出した。



土地の文化を  
アートで表現する暮らし

地域に根付いてきた生業や暮らしを掘り下げ、絵画作品や楽曲で表現し続けるアーティストがいる。作品は地域住民らにとって、土地の文化を捉え直す機会となる。



**古今東西の  
アート作品に触れる暮らし**

美術館やギャラリーでは国内外の有名作家や地元の若手などさまざまな芸術家の作品に触れることができる。劇場では演劇や人形劇、神楽などが定期的上演され、舞台アートの世界を楽しめる。



**趣味・特技を発表し合う暮らし**

市の芸術文化祭や町内会単位の展覧会、発表会など、活動の成果を発表する場が多くある。人に見られるという刺激は、活動を続ける上での意欲につながる。



**ストリートでダンスの技を  
磨き合う暮らし**

市内の路上ではさまざまなレベルのダンサーがパフォーマンスや練習をする姿が見られる。互いに技を見せ合ったり経験者が初心者にアドバイスしたりするなど、ダンサーどうしの交流もさかん。



**図書館で読書会に  
参加する暮らし**

図書館で司書の助言を受けながらさまざまな書物に触れ、思考を深める。時々開催される読書会に参加すると、他者の視点を感じたり新たな分野の面白さに気づいたり刺激的な経験ができる。



**自分の作品が  
まちなかに展示される暮らし**

市内で活動するアーティストやアートを学ぶ学生の作品が、公共施設、公園、道路などに展示されている。ところどころに有名作家の作品も置かれ、町全体が美術館のようになった。



**活気に満ちあふれた塩竈の様子を  
後世に伝える暮らし**

江戸時代に仙台藩の庇護を受け門前町や花街、流通拠点として賑わった歴史は郷土史家らによって詳らかになり、書物や芸術作品として残され、地域住民にも知られるようになった。



**神社や公園でヨガや太極拳を  
楽しむ暮らし**

商店街にある神社の境内や住宅地の公園で太極拳の稽古をする。年齢も性別も体格もさまざまな参加者が、ゆったりした動きの中で自分の心身と向き合う。別の日にはヨガ愛好者のグループが活動している。



**近所のミニシアターで  
気軽に名画を楽しむ暮らし**

小規模な映画館が点在し、気軽に映画を楽しめる。名画座、自主制作映画専門、ドキュメンタリー専門など館によってコンセプトが異なり、大手シアターでは扱われない作品が上映されることが多い。



## 第7章 みんなが主役になれるまち（協働）

---

### まちづくりの方向性

# 様々な個性がつながり、 役割を発揮できるまちづくり

- 第1節 塩竈の魅力向上に向けた市民活動への支援体制の充実
- 第2節 大学や企業等との交流・連携・共創、多様化する社会への理解促進
- 第3節 効果的・効率的で透明性の高い行政経営



## 第1節 塩竈の魅力向上に向けた市民活動への支援体制の充実

### (1) まちづくりに関わりたくなる環境づくり

- ①まちづくり活動を始めたいという市民や市民活動に取り組んでいる団体に向けて、多様な学習機会を提供します。
- ②市民活動への関心や参加意識を高めるため、幅広い分野の情報収集と様々な手段や機会を活用した情報提供に努めます。

すみ  
よさ

### (2) 市民活動団体との協働・連携の推進

- ①政策形成過程への市民活動団体の参画を促進することで、協働のまちづくりを進め、パートナーシップの強化を図ります。
- ②市民活動団体が交流する機会の創出や、団体が連携した取組への支援の充実により、市民活動団体の横のつながりを深めます。

ほび  
わい

### (3) 相談・支援体制の充実と気軽に集えて活動できる環境づくり

- ①協働による地域課題の解決に向けて、市民活動団体への相談・支援体制の充実を図ります。
- ②自主的な活動や交流できる場の提供を通じて、気軽に集えて活動できる環境を整えます。

## 第2節 大学や企業等との交流・連携・共創、多様化する社会への理解促進

### (1) 協働・共創によるまちづくり

- ①市民、NPO、企業、金融機関など、多様な主体が参画した協働・共創によるまちづくりを推進します。 
- ②まちの活性化や地域課題の解決に向けて、大学や企業などとの包括的な連携を強化し、幅広い知見や技術などを積極的にまちづくりに取り入れます。 

### (2) 性別に関わらずみんなが等しく活躍できる社会づくり

- ①仕事と家事・育児・介護など、夫婦で家庭内の役割を協働して担えるよう、意識啓発と学習機会の提供に努めます。
- ②ドメスティックバイオレンス（DV）の防止に向けて、あらゆる機会を通じて啓発を行うとともに、被害者の自立に向けた支援の充実に努めます。
- ③性別に関わらず、やりがいをもって働ける就労環境づくりに向けて、企業などと連携して取り組みます。 

### (3) 多文化共生社会への理解促進

- ①国際理解や国際交流への理解を深めるため、関係機関・団体との連携強化と支援の充実に努めます。
- ②市内に住む外国人が地域の一員として安心して暮らせるよう、多文化共生への理解促進に努めます。

### 第3節 効果的・効率的で透明性の高い行政経営

#### (1) 効果的な情報発信と情報共有

- ① 市政だよりやホームページの内容充実を図るとともに、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用など、時代のニーズに応じた効果的な情報発信を行います。
- ② 市民とのパートナーシップを深めるため、だれもが自由に市政運営に対して意見を言える機会の充実に努め、双方向の情報共有を推進します。

すみ  
よさ

すみ  
よさ

#### (2) きめ細やかで持続可能な行政経営

- ① 持続可能な行政経営に向けて、計画的な財政運営や適正な定員管理、アウトソーシングの推進など、行財政改革を推進します。
- ② 情報公開の充実により、市民から信頼される透明性の高い行政運営に努めます。
- ③ 市民目線に立ち、地域課題等に即時に対応できるよう、職員の育成に努めるとともに、組織力の強化を図ります。

#### (3) 広域的な協力・連携による行政サービスの向上

- ① 周辺自治体との広域的な協力・連携により、共通課題の解決や行政サービスの向上に努めます。
- ② 東日本大震災において支援いただいた自治体との交流を深め、今後のまちづくりに生かします。

## 成果指標

NO	指標名	現状値	目標値	備考
1	市民活動団体登録数 	94 団体 (令和 2 年度)	100 団体 (令和 8 年度)	
2	大学や企業などとの包括 連携協定の新規締結件数 	-	10 件 (令和 8 年度) ※5 カ年累計	
3	健全化判断比率 ①実質赤字比率 ②連結実質赤字比率 ③実質公債費比率 ④将来負担比率	① - ② - ③ 6.2% ④ - (令和元年度)	① - ② - ③ 6.0% ④ - (令和 8 年度)	

みんなで描いた「100の暮らし」

協働の分野では、みんなで一緒に地域活動に参加する姿や様々な文化に触れる姿、まちの未来を語り合う姿など、さまざまな世代が協働でまちづくりに関わる暮らしが描かれました。



**地域誌・ミニコミ紙  
地域の情報を得られる暮らし**

地域の個人や団体が発行する小メディアから、地域の情報を得る。投稿など紙面（誌面）上への読者参加も活発で、地域メディアが文化交流の場となっている。



**みんなが休む日がある暮らし**

地域の商店がすべて休みの日があり、誰もがのんびり暮らす。地域の祭りやイベントは休みの日に開催され、商店主や地域の子どもたちが参加して賑やかになる。



**コミュニティFM で地域情報を  
得る暮らし**

コミュニティFM では日々、生活に役立つ地域情報が流れている。投稿やリクエストを通じたラジオ上での交流もさかん。災害時の情報源としても市民の信頼が厚い。インターネット経由で聴く人も多い。



**町内会や小さなコミュニティに  
参加する暮らし**

市内のどの地区でも住民どうしの交流がさかん。地域活動においては子どもたち、親世代、高齢者がそれぞれの役割を果たし、和やかで暮らしやすい地域づくりに貢献している。



**バスで行く「清掃ツアー」に  
参加する暮らし**

市内の観光スポットや公園などをバスで巡って清掃するボランティア活動が盛ん。実際にはゴミはあまりないが、参加者にとっては健康増進だけでなく地域の魅力の再発見につながる。



**まちの未来を語り合う暮らし**

高齢者と若者が一緒になって理想のまちづくりを語り合う場がある。誰もが「地域の子供たちにどんな塩齋を残すのか」を真剣に考え、意見を交わす。議論の内容は市政に生かされる。



**地域のサークル活動で生きがいを感じる暮らし**

各町内会では俳句、写真、植物、ソフトボールなどさまざまなサークルが活発に活動していて、住民の生きがいになるとともに、地域内外の住民同士の交流の場になっている。



**子どもたちが外国人と交流する暮らし**

子どもたちにとって言語や生活様式の異なる人が身近にいることは当たり前のこととなった。日常的な交流を通し、互いの文化を尊重して受け入れる姿勢が自然に身についている。



**地区の新年会や忘年会で子供たちと歌う暮らし**

新年会、忘年会、敬老会など、町内会のイベントで住民らの交流が深まっている。毎回、地域の子供たちの合唱は大人たちの一番の楽しみ。大人たちも一緒になって歌う。



**ムスリムの友人とレストランで食事する暮らし**

市内には多くの外国人が住んでいるため、多くの飲食店が、さまざまな宗教や食文化に対応したメニューを用意している。アレルギーのある人でも食べられる料理を提供する店も多い。



**オシャレして街に出かける暮らし**

年齢を問わずおしゃれを楽しむ人が多く、みんな自信に満ちた姿でカッコよく歩く。学生の間にはデートの服装を祖母に選んでもらうとうまくいくという都市伝説が生まれた。



### まちづくりの方向性

## 人々が住まい・集える持続可能な島づくり

- 第1節 健康で安心して住み続けられる生活環境の充実
- 第2節 浦戸産品（海産物・農産物）の高付加価値化や担い手育成による産業の振興
- 第3節 浦戸ならではの自然や歴史・文化を生かした交流の推進



### 第1節 健康で安心して住み続けられる生活環境の充実

#### (1) 市営汽船の利便性確保と経営安定化

- ①島民の利用ニーズを適正に踏まえた快適な移動環境の提供に努め、市営汽船の利用促進を図ります。 すみよさ
- ②運航体制の最適化とプロモーション活動に力点を置いた営業力の強化に努め、持続可能な航路運営を図ります。
- ③浦戸の基幹産業である海産物の輸送支援の継続や、観光客が利用しやすい環境の整備に努め、浦戸の産業と交流を支えます。

#### (2) 安定的な医療・福祉サービスの提供

- ①これからも安心して浦戸で暮らしていけるよう、年間を通じた定期的な診療体制の維持・提供を図ります。 すみよさ
- ②浦戸地区に安定した介護サービスの提供を確保するため、地域包括支援センターによる相談支援体制の充実と介護サービス事業者の誘致に取り組みます。 すみよさ
- ③浦戸地区の介護予防の推進に向けて、関係団体への支援に取り組みます。

#### (3) 移住者の受入環境づくり

- ①浦戸への移住者の受入環境の整備に向けて、国・県などの関係機関に働きかけを行うとともに、空き家の有効活用に努めます。 ほびわい

#### (4) 特色ある教育の充実

- ①小中併設校である浦戸小中学校においては、島民の協力を得ながら、浦戸の恵まれた自然環境や文化、伝統を生かし、教育の推進や子どもたちの活躍の場の創出に努めます。 よるこび

#### (5) 先端技術の活用による島生活の充実

- ①島民の生活環境の充実に向けて、企業などと連携し、先端技術を活用した買い物支援や移動支援などの活用について検討を進めます。 すみよさ

## 第2節 浦戸産品（海産物・農産物）の高付加価値化や 担い手育成による産業の振興

---

### （1）浦戸のブランド化促進と6次産業化支援

①浦戸の海産物・農産物について、安全性や生産性のさらなる向上に努めながら、浦戸の自然や歴史と島の人々によって育まれてきた背景を合わせて広く発信するなど、関係機関と連携して「浦戸ブランド」の磨き上げを行います。

やり  
がい

②浦戸の海産物や農産物の高付加価値化に向けて、既存団体の活動を支援しながら、さらなる商品開発の促進や販路開拓の支援により、浦戸特産物の6次産業化を推進します。

やり  
がい

### （2）浦戸産業の魅力発信と担い手の確保・育成

①島の豊かな自然のもとで充実して働ける環境や浦戸の海産物・農産物の価値を広く発信し、産業の担い手確保に努めます。

やり  
がい

②持続可能な浦戸の産業づくりに向けて、島民と連携を深めながら、地域おこし協力隊をはじめとした1次産業従事者の受入体制づくりに取り組みます。

やり  
がい

③新たな漁業従事者等の招致育成や島内外の人々の交流活動が促進できるよう、ステイ・ステーションなど拠点となる施設の環境整備と効果的な運営に努めます。

### 第3節 浦戸ならではの自然や歴史・文化を生かした交流の推進

---

#### (1) 個性ある地域資源をつなぎ合わせた交流活動の推進

- ①浦戸の魅力である自然景観や歴史的資源の保全に努めるとともに、島民とともに各島が持つ資源の掘り起こしを行い、浦戸諸島一体での交流活動を推進します。



#### (2) 浦戸ならではの観光メニューの創出

- ①島民や各種団体、事業者等と連携し、訪れる人々に浦戸ならではの癒しや楽しさを与えるられる観光メニューを創出します。



- ②浦戸に訪れる人々が快適に過ごせるよう、環境整備をはじめとした受入態勢づくりに努めます。

- ③浦戸の自然や産業を体験できる場として、防災集団移転跡地の有効活用を図り、交流人口の拡大に努めます。



#### (3) 時代のニーズに沿った受入環境づくり

- ①島のよさや島の暮らしを丸ごと体験できる滞在・体験型のメニューを充実させ、個人旅行や教育旅行の受入態勢を整えます。(再掲)

- ②浦戸の魅力である自然景観などを生かし、働きながら非日常の癒しを求められる場の構築に向けて、事業者などと連携して取り組みます。



## 成果指標

NO	指標名		現状値	目標値	備考
1	浦戸ブランド（海産物・農産物） 新商品開発数	やり がい	－	10品 （令和8年度） ※5カ年累計	
2	ふるさと納税返礼品のうち浦戸産 品の申込件数	やり がい	409件 （令和元年度）	490件 （令和8年度）	
3	アンケートで、浦戸の1次産業に ついて興味があると回答した割合	やり がい	－	50% （令和8年度）	
4	地域おこし協力隊受入人数	やり がい	2人 （令和2年度）	7人 （令和8年度） ※5カ年累計	

## みんなで描いた「100の暮らし」

浦戸の  
分野

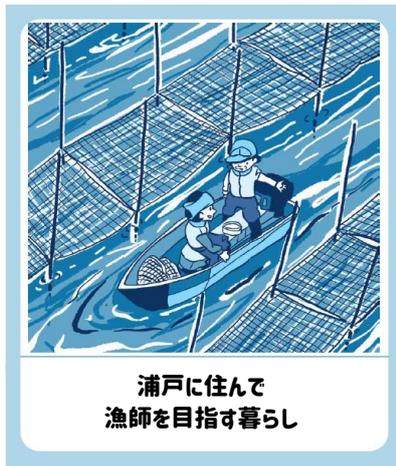
浦戸の分野では、浦戸ならではの自然や文化に抱かれた、島の人々の日々の暮らしや、島を訪れる人々がその恵みを楽しんでいる暮らしが描かれました。



船が身近にある暮らし

浦戸や松島、宮戸島などへの移動手段として、日常的に船を利用する。

松島湾には多くの釣り船が浮かぶ。小型船のシェアリングがさかんになり、自分で操船する人も増えた。



浦戸に住んで  
漁師を目指す暮らし

漁師を志す人が浦戸に長期滞在しながら漁師の指導を受け、技術の習得と独立を目指す。その活動を支援するしくみがあり、地元漁師も後継者育成のために協力を惜しまない。



浦戸の菜の花を活かす暮らし

浦戸に広がる菜の花畑はウォーキングコースとして人気。島のカフェでは菜の花のハチミツを使ったスイーツや菜の花の漬物を味わえる。春に島の民宿に泊ると食事は菜の花づくし。



浦戸で働きながら  
余暇を楽しむ暮らし

浦戸に宿泊しながらパソコンで仕事。仲間との打ち合わせや営業先との交渉もオンラインでできる。仙台や東京からワーケーションで来ている人も多い。



浦戸で白菜を育てる暮らし

浦戸の住民が浦戸産の種から育てる白菜は「浦戸白菜」として仙台白菜とは別の新たなブランドになった。市内の子どもたちが畑に通って栽培、採種を体験し、収穫した白菜は給食で味わう。



**岸壁でのんびり  
釣りをしながら海を眺める暮らし**

天気の良い日は岸壁で釣りを  
する人の姿が多い。釣った魚は  
料理して食べる。釣れなくて  
も、穏やかな海をのんびり眺め  
ているだけで最高のリフレーシ  
ュになる。



**浦戸で休日を過ごす暮らし**

休日は浦戸の島を訪れ、ツバキの  
遊歩道や菜の花畑を歩き、丘の上  
から海を眺める。お昼は島の民宿や食  
堂で海苔や牡蠣やシラウオなどを使  
った料理を食べる。宿泊して島を堪能  
する人も多い。



**浦戸で農作物を  
収穫できる暮らし**

島に農地を借りて好きな野菜  
を植え、週末には草取りや水や  
りに行く。  
収穫の楽しみを味わえるだけ  
でなく、屋外での作業で体力が  
ついた。丁寧に管理された松林  
ではマツタケも取れる。



**牡蠣殻を用いた  
商品を生産する暮らし**

牡蠣殻を活用して建築資材や  
土壌改良剤を作る事業が地場産  
業として発展し、雇用を生ん  
だ。市内の農地では牡蠣殻の土  
壌改良剤が普及し、おいしい野  
菜がとれるようになった。



### 3. しおがま未来創生プロジェクト

(第2期塩竈市まち・ひと・しごと創生総合戦略)



# しおがま未来創生プロジェクト

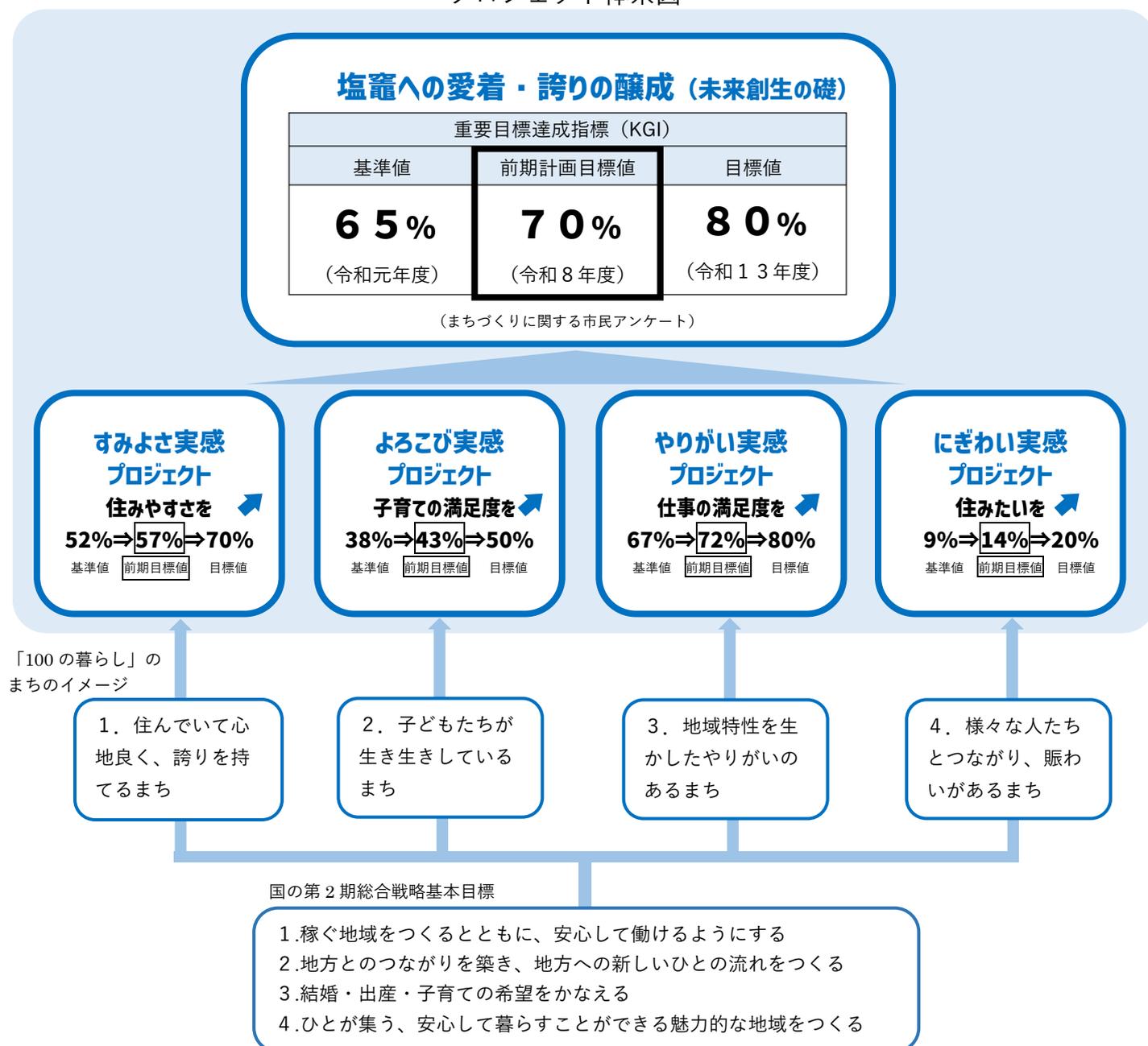
## (第2期塩竈市まち・ひと・しごと創生総合戦略)

都市像の実現を目指す原動力となる「しおがま未来創生プロジェクト」の重要目標達成指標（KGI）として、前期計画期間に「本市への愛着・誇りを70%」に高めることを掲げ、「すみよさ実感」「よろこび実感」「やりがい実感」「にぎわい実感」の4つのプロジェクトを推進します。

プロジェクトごとに数値目標を設定した上で、その実現に向けて重点的に取り組む施策について、分野横断的に基本計画の施策体系と連動させて示しています。

計画期間：令和4年度～令和8年度

### プロジェクト体系図



## 1) すみよさ実感プロジェクト

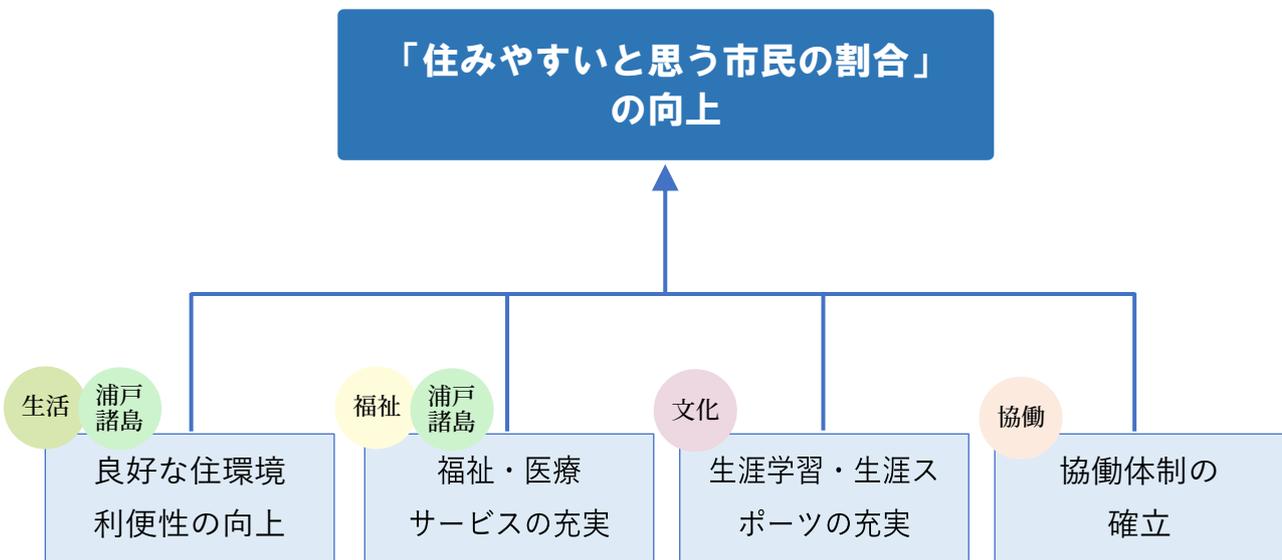
コンパクトシティの利便性や地域資源を最大限に生かした取組や、医療や福祉サービスの充実などにより、安心して快適に暮らすことができる環境を整え、子どもからお年寄りまでの全ての市民が住み良さを実感できるまちを目指します。



### (1) 数値目標

目標	基準値	目標値
住みやすいと思う 市民の割合	52% (令和元年度)	57% (令和8年度)

※まちづくりに関する市民アンケート



## (2) 重点施策



### ① 良好な住環境の創出と利便性の向上

- ・ 東日本大震災での教訓を生かし、一人一人が日ごろから災害を「我が事」として捉え、災害時の「自助・共助」による具体的な行動につながるよう、防災訓練や津波防災センターを活用した防災教育の充実に努めます。
- ・ 自主防災組織の育成や消防団員の確保を通じて、市民との協働による防災力の向上に取り組むとともに、消防施設の整備を計画的に進め、資機材の適正な維持管理に努めます。
- ・ 犯罪が起こりにくい環境整備に向けて、防犯協会をはじめとした関係機関との連携を強化するとともに、防犯カメラや防犯灯の整備に向けた支援を行います。
- ・ 「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成に向けて、コンパクトシティや魅力ある景観など、本市の特性を最大限に生かした住環境の整備に努めます。
- ・ 道路については、計画的な整備と維持管理に努めるとともに、バリアフリー化の促進や「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を目指した、安全で魅力のある歩道の整備に努めます。
- ・ 公共施設については、人口減少や少子高齢化による需要の変化に対応するため、長期的な視点から更新・統廃合・長寿命化などを計画的に実施します。
- ・ バスやタクシー事業者と連携し、市内4駅を起点とした公共交通体系を充実させ、回遊性を高めるとともに、駅前広場の機能の維持に努めます。
- ・ 海辺のまちでの暮らしを最大限に享受できるよう、特別名勝松島をはじめとした貴重な自然景観や親水空間の保全に努めます。
- ・ 脱炭素社会の実現に向けて、市民・事業者と連携を図りながら、地域特性を生かした再生可能エネルギー等の地域資源の活用について調査・研究を進めます。

#### 〔浦戸諸島〕

- ・ 島民の利用ニーズを適正に踏まえた快適な移動環境の提供に努め、市営汽船の利用促進を図ります。
- ・ 島民の生活環境の充実に向け、企業などと連携し、先端技術を活用した買い物支援や移動支援などの活用についての検討を進めます。

## ②福祉・医療サービスの充実

- ・ 高齢者の知識や経験を生かし、担い手として地域社会に参画できる環境をつくります。
- ・ 福祉の心を育む教育やボランティアの育成支援などを通じた「心のバリアフリー」と、効果的な福祉情報の提供や情報格差の是正など「情報のバリアフリー」を推進します。
- ・ 生活困窮者の自立に向けて、一人一人の状況に応じたきめ細かな相談体制の充実に努めるとともに、関係機関と連携しながら就労支援や生活支援を強化します。
- ・ 健康についての知識の普及啓発に努めるとともに、楽しみながら継続して健康づくりに取り組める環境をつくります。
- ・ 住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、医療と介護・保健分野の連携強化を図り、市立病院を中心とした地域医療体制の充実を図ります。
- ・ これからも安心して浦戸で暮らしていけるよう、年間を通じた定期的な診療体制の維持・提供を図ります。
- ・ 浦戸地区に安定した介護サービスの提供を確保するため、地域包括支援センターによる相談支援体制の充実と介護サービス事業者の誘致に取り組みます。

## ③生涯学習・生涯スポーツの充実

- ・ 一人一人の主体的な学びを大切にしながら、多様な方式や様々なメニューによる学習機会の提供に努めます。
- ・ 生涯にわたって健康な生活を送れるよう、幼児期・少年期から様々なスポーツ機会を提供するとともに、一人一人のニーズに沿ったスポーツに親しむ機会を提供します。
- ・ 国指定重要文化財の鹽竈神社や特別名勝松島をはじめとした貴重な文化財を市民の共有財産として守ります。
- ・ 講演会や講座等の充実を図り、幅広い年代の市民が、塩竈の人、歴史、文化、自然について学ぶ機会を提供します。

#### ④協働体制の確立

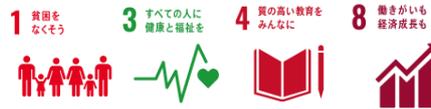
- ・まちづくり活動を始めたいという市民や市民活動に取り組んでいる団体に向けて、多様な学習機会を提供します。
- ・市政だよりやホームページの内容充実を図るとともに、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用など、時代のニーズに応じた効果的な情報発信を行います。
- ・市民とのパートナーシップを深めるため、だれもが自由に市政運営に対して意見を言える機会の充実に努め、双方向の情報共有を推進します。

### （３）重要業績評価指標（KPI）

NO	指標名	基準値	目標値
1	「社会的な活動」を行っている高齢者の割合	42.6% (7,661人) (令和元年度)	62.4% (令和8年度)
2	「障がいのある人もない人も共に安心して暮らせる福祉のまちづくり条例」を知っている人の割合	12.5% (令和2年度)	50.0% (令和8年度)
3	自主防災組織結成団体数	83団体 (令和2年度)	90団体 (令和8年度)
4	犯罪発生件数	267件 (令和元年度)	200件以下 (令和8年度)
5	「魅力ある都市空間の形成」満足度	19.7% (令和元年度)	30.0% (令和8年度)
6	「交通体系の形成」満足度	22.4% (令和元年度)	30% (令和8年度)
7	「歴史の継承と文化の振興」満足度	24.3% (令和元年度)	基準値を超える 数値とする (令和8年度)
8	「ニーズにあった学習機会」満足度	- 今後取得予定 (令和3年度)	基準値を超える 数値とする (令和8年度)
9	市民図書館満足度	68.5% (令和2年度)	80%以上 (令和8年度)
10	「スポーツ機会の提供」満足度	41件 (令和2年度)	基準値から 増加させていく (令和8年度)
11	市民活動団体登録数	94団体 (令和2年度)	100団体 (令和8年度)

## 2) よろこび実感プロジェクト

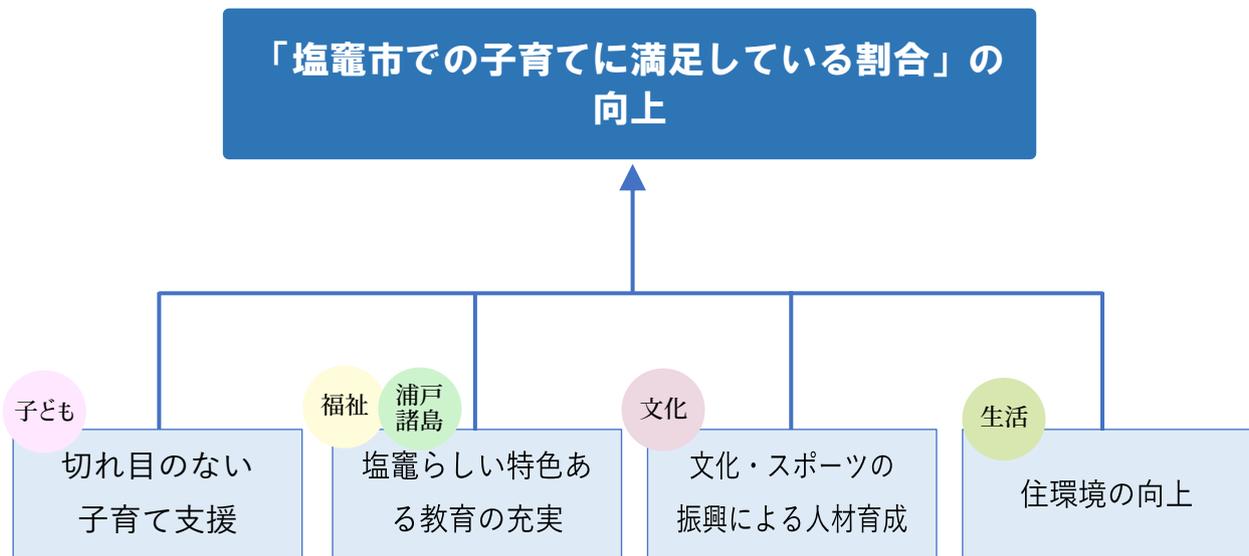
切れ目のない子育て支援施策の充実や特色ある質の高い学校教育の推進などにより、子どもたちの健やかな成長を支え、子育て世帯が子どもを産み育てる喜びを実感できるまちを目指します。



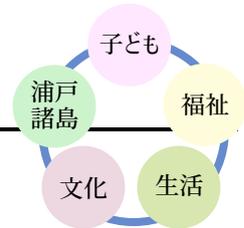
### (1) 数値目標

目標	基準値	目標値
塩竈市での子育てに満足している割合	38% (令和元年度)	43% (令和8年度)

※まちづくりに関する市民アンケート



## (2) 重点施策



### ①切れ目のない子育て支援

- ・ 子育て世代包括支援センター「にこサポ」などを中心として、妊娠期から子育て期にかかる全ての子どもの健康、発達、育児などの相談体制の充実を図り、ワンストップで切れ目のない支援を行います。
- ・ 妊産婦健康診査や新生児訪問、乳幼児健康診査等を実施するとともに、産後も母親が心身ともに健やかな生活を送れるよう、様々な機会を活用した育児相談を実施するなど、産後ケアの充実に努めます。
- ・ 中学生に向けて、子育ての大切さを知る体験学習に取り組み、「命の尊さ」や「親の愛情」について学ぶ機会を充実させます。
- ・ 子ども医療費や妊産婦健康診査、不妊治療、産後健康診査にかかる費用等の助成を行い子育てに要する経済的負担の軽減を図ります。
- ・ 延長保育や乳児・低年齢児保育、一時預かり、病児保育などの充実を図り、多様化する就労形態に対応した保育サービスを提供します。
- ・ 教育視点を取り入れた学習や、地域交流・世代間交流など、放課後児童クラブの活動内容の充実による質の向上を図ります。
- ・ 子育て世代の労働時間の短縮や育児休業制度の普及に向けた意識啓発に努めるとともに、企業の子育て支援活動を促進します。
- ・ 誰一人取り残さない地域づくりを目指し、それぞれの家庭の状況に応じた相談や、生活の安定・自立に向けた支援を行います。
- ・ 食と健康への関心を高める取組を充実させ、子どもの時から調和のとれた食生活を送る習慣の定着を促進します。

## ②塩竈らしい特色ある教育

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」と「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れ、一人も取り残すことなく「できる・わかる・思いやる」喜びが味わえる「協同的な学び」を充実させます。
- ・ 小学校と幼稚園・保育所との積極的な連携により、円滑に小学校生活に適応できる環境を整えます。
- ・ 小学校と中学校との連携を進め、「児童生徒間」や「教職員間」の様々な交流活動を実施します。
- ・ 豊かな歴史や文化とふれあう機会の充実を図り、子どもたちの郷土愛を育みます。
- ・ 小中併設校である浦戸小中学校においては、島民の協力を得ながら浦戸の恵まれた自然環境や文化、伝統を生かし、教育の推進や子どもたちの活躍の場の創出に努めます。
- ・ 多彩な食文化を生かした体験学習や地域の恵みを取り入れた給食の提供などにより食育を推進します。
- ・ ICT（情報通信技術）を効果的に活用できる教育環境整備に努め、情報を活用する力を育み、子どもたちの創造性や可能性を広げます。
- ・ 子どもたちの健やかな成長に向けて、地域などが主体となった放課後の居場所づくりを支援するとともに、学校・家庭・地域と連携し、取組の充実に努めます。

## ③文化・スポーツの振興による人材育成

- ・ 市民交流センターや杉村惇美術館などの文化施設を中心に、子どもの頃から良質な文化・芸術に触れる機会を提供することで、創造性豊かな人材の育成に努めます。
- ・ プロスポーツチームとの連携強化や地域のスポーツ団体への支援の充実により、スポーツを通じた人材育成に努めます。

## ④住環境の向上

- ・ 伊保石公園については、幅広い年齢の子どもたちが遊べる場や眺望の魅力を生かせる場として、より市民に親しまれる環境の創出に努めます。

### (3) 重要業績評価指標 (KPI)

NO	指標名	基準値	目標値
1	「子育て支援の充実」の満足度	21.5% (令和元年度)	25% (令和8年度)
2	一時預かり利用数	119人 (令和2年度)	900人 (令和8年度)
3	放課後児童クラブ待機児童数 (年間最大人数)	5人 (令和2年度)	0人 (令和8年度)
4	「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合	① 小学校 国語：85.8%(90.8%) 算数：84.7%(86.5%) ② 中学校 国語：92.0%(90.3%) 数学：83.2%(83.6%) (令和2年度)	県平均を上回る (令和8年度)
5	「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合	① 小学校 66.5% (67.5%) ② 中学校 62.8% (56.9%) (令和2年度)	県平均を上回る (令和8年度)
6	子どもほっとスペースづくり支援事業実施主体数	3主体	6主体 (令和8年度)
7	地域等が主体の「放課後の居場所づくり」支援者数	- 今後取得予定 (令和3年度)	450人 (令和8年度)
8	伊保石公園休日来園者数	15,000人/年 (令和2年度)	32,000人/年 (令和8年度)
9	生涯学習施設と事業に対する満足度	- 今後取得予定 (令和3年度)	基準値を超える 数値とする (令和8年度)
10	市民交流センター・遊ホールの年間利用者数	47,892人 (H30年度)	52,681人 (令和8年度)
11	市民交流センター・遊ホールの事業満足度	94.4% (令和2年度)	100%に近づける (令和8年度)

### 3) やりがい実感プロジェクト

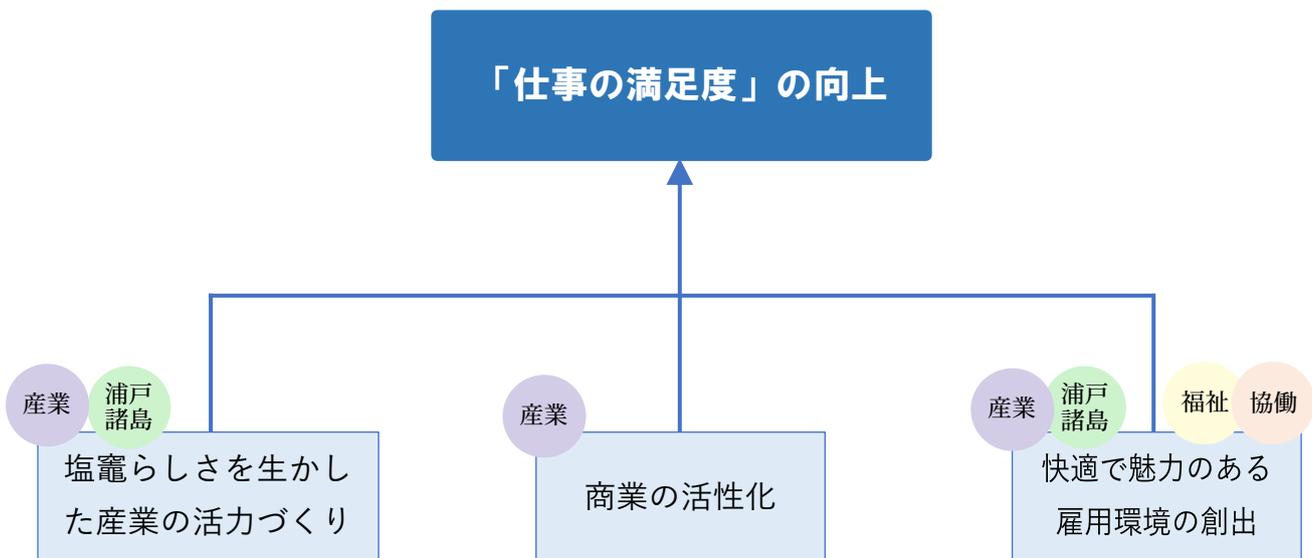
水産品や水産加工品をはじめ、多彩な「食」がつどう「みやぎの台所・しおがま」の特性を生かし、基幹産業である水産業や水産加工業のさらなる振興や魅力ある企業の誘致などにより、本市で働く方々がやりがいを実感できるまちを目指します。



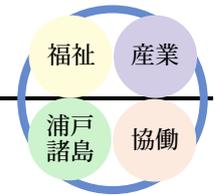
#### (1) 数値目標

目標	基準値	目標値
仕事の満足度	67% (令和元年度)	72% (令和8年度)

※まちづくりに関する市民アンケート（業種・職種、雇用形態、やりがい、賃金面）の満足度の平均値



### (3) 重点施策



#### ①塩竈らしさを生かした産業の活力づくり

- ・ 食に関わる様々な産業の連携促進により、食のブランド力向上と新たな地域資源の創出に努め、「食による産業振興」を図ります。
- ・ 食に関わる人たちのネットワークを構築し、塩竈の食材や食文化を生かした体験学習活動などを協働して展開することにより、食育を推進します。
- ・ 安全安心で魅力のある食の提供に向けて、衛生管理や環境に配慮した生産などに関する取組を支援します。
- ・ 地元での消費拡大に向けて、様々な場面で、市民が地元の食や食文化に触れる機会を提供します。
- ・ 魚市場においては、衛生管理を徹底しながら、積極的な漁船誘致活動を行うとともに、新たな取り扱い魚種の拡大を推進するなど、水揚げ増進に努めます。
- ・ 水産品・水産加工品を活用した、新たな「食」の提案につながる取組の推進や、事業者・大学などと連携した魚食に関する体験機会の充実により、地元からの消費拡大を図ります。
- ・ 水産品・水産加工品の流通拡大に向けて、さまざまな商談機会を活用した商材の情報発信による国内販路の回復や、海外の食文化に適合した商品開発などによる輸出商流の確立を支援します。
- ・ 浦戸の海産物・農産物について、安全性や生産性のさらなる向上に努めながら、浦戸の自然や歴史と島の人々によって育まれてきた背景を合わせて広く発信するなど、関係機関と連携して「浦戸ブランド」の磨き上げを行います。
- ・ 浦戸の海産物や農産物の高付加価値化に向けて、既存団体の活動を支援しながら、さらなる商品開発の促進や販路開拓の支援により、浦戸特産物の6次産業化を推進します。
- ・ 島の豊かな自然のもとで充実して働ける環境や浦戸の海産物・農産物の価値を広く発信し、産業の担い手確保に努めます。
- ・ 塩釜港区の立地の優位性や本市独自の優遇制度など、ポートセールスに取り組み、入港船舶や貨物量の増加を図ります。
- ・ 大学や企業との積極的な連携により、地域課題解決に向けた実証実験の場の提供などを通じて、新たな産業の種を共に創ります。

## ②商業の活性化

- ・若い世代がチャレンジしたくなる環境を整え、特色ある創業支援体制の構築を図ります。
- ・地域活力の維持に向けて、事業承継に係る普及啓発に努めます。
- ・個店の魅力を創造する取組や、地域や個店が連携して商店街の魅力を高める取組を支援し、門前町の風情を生かした市民から親しまれる商店街づくりに努めます。

## ③快適で魅力のある雇用環境の創出

- ・本市の歴史・文化や自然、立地の優位性など、地域特性をもつ遊休地の情報を積極的に発信し、若者も魅力を感じる企業の誘致に努めます。
- ・自然環境やコンパクトシティの利便性を生かしたりリモートワークの環境整備やサテライトオフィスの誘致に努めます。
- ・障がいのある人の雇用について、企業へ積極的に働きかけるとともに、福祉施設と連携して就労支援の充実を図ります。
- ・性別に関わらず、やりがいをもって働ける就労環境づくりに向けて、企業などと連携して取り組みます。
- ・持続可能な浦戸の産業づくりに向けて、島民と連携を深めながら、地域おこし協力隊をはじめとした1次産業従事者の受入体制づくりに取り組みます。

#### (4) 重要業績評価指標 (KPI)

NO	指標名	基準値	目標値
1	施設就労者の一般就労への移行者数	10人 (令和元年度)	17人 (令和8年度)
2	鯉・鮪一本釣漁船における 冷凍カツオ・マグロの水揚量の割合	14.5% (令和2年)	20.0% (令和8年)
3	地元の食材を利用したイベント回数	5回 (令和2年度)	8回 (令和8年度)
4	塩竈産品販路拡大支援事業による 水産品輸出入出荷量	2,289kg (令和2年)	3,433kg (令和7年)
5	創業支援等事業計画に基づく新規創業者数	—	40件 (令和8年度) ※5カ年累計
6	浦戸ブランド(海産物・農産物)新商品開発数	—	10品 (令和8年度)
7	ふるさと納税返礼品のうち浦戸産品の申込件数	409件 (令和元年度)	490件 (令和8年度)
8	アンケートで、浦戸の1次産業について 興味があると回答した割合	—	50% (令和8年度)
9	地域おこし協力隊受入人数	2人 (令和2年度)	7人 (令和8年度) ※5カ年累計

#### 4) にぎわい実感プロジェクト

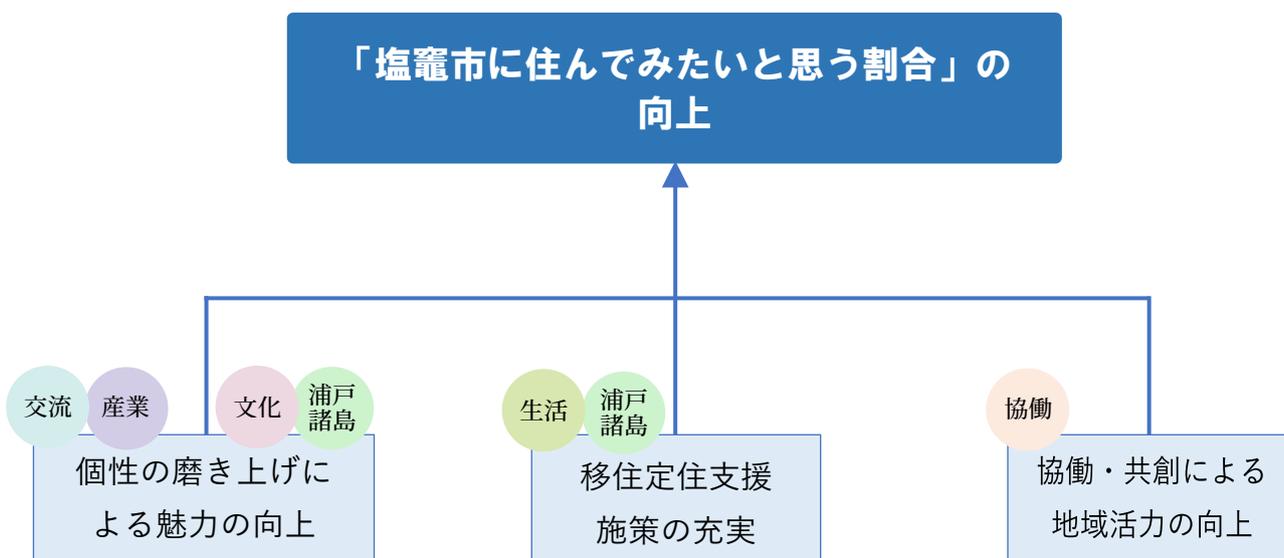
本市が持つ魅力ある個性を有機的につなぎあわせた移住定住施策や交流人口拡大に向けた取組の推進により、塩竈への新しい人の流れを築くことで、市民をはじめ多くの方々が賑わいを実感できるまちを目指します。



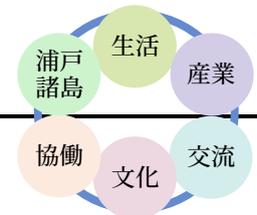
#### (1) 数値目標

目標	基準値	目標値
塩竈市に住んでみたいと思う割合 (令和2年度市外居住者 Web アンケート)	9 % (令和2年度)	14 % (令和8年度)

※ 「住んだことがある人」・「訪れたことはある人」の合計の割合



### (3) 重点施策



#### ①個性の磨き上げによる魅力の向上

- ・ 「鹽竈神社と門前町地区」、「ベイエリアとマリングート地区」、「市場地区」、「浦戸諸島」の4つの観光拠点を中心に、歴史や文化、食などの地域資源をつなぎ合わせたストーリー性のある観光メニューの創出を図ります。
- ・ 観光振興コンセプト『千年の歴史と美食にであう港町・塩竈』を推進し、歴史や食を生かした塩竈ブランドを確立し、統一したイメージで全国・世界に発信します。
- ・ 観光ガイドボランティアとの連携とともに、よりテーマ性のある有料ガイドや、観光についての企画と事業推進を担う観光プランナーなどの人材育成、関係団体との連携強化を図ります。

#### 〔歴史・文化〕

- ・ 「鹽竈神社と門前町地区」については、これまでの歴史と文化を物語として発信するとともに、商店街などの関係団体と連携しながら、特色ある体験、食事、買い物など、さまざまな活動を楽しんでいただける環境を整えます。
- ・ 市内に残る貴重な歴史的建造物の保存や歴史資料の収集に努め、まちづくりに生かします。
- ・ 文化財、歴史的建造物、食文化などの魅力を生かした交流を推進します。

#### 〔食・港〕

- ・ 「ベイエリアとマリングート地区」については、広域周遊型の松島湾観光の起点としての役割に加えて、ベイエリアの緑地や公園とマリングートを活用し、海辺に親しめるエリアとしての磨き上げを行います。
- ・ マリングート塩釜や千賀の浦緑地、北浜緑地公園などを活用した海辺に親しむ市民主体の取組を支援し、海とみなとへの愛着を育みます。
- ・ 「市場地区」については、魚市場や水産物仲卸市場のつながりを深め、水産品や水産加工品を「食べて」「買って」「体験」できる観光拠点として強化します。
- ・ 事業者や関係団体と連携し、訪れる人々が、本市の多彩な食や食文化に関心を持ち「また来たい。」と思われる取組を推進します。

#### 〔浦戸〕

- ・ 「浦戸諸島」については、島のよさや島の暮らしを丸ごと体験できる滞在・体験型のメニューを充実させ、個人旅行や教育旅行の受入態勢を整えます。
- ・ 浦戸の魅力である自然景観や歴史的資源の保全に努めるとともに、島民とともに各島が持つ資源の掘り起こしを行い、浦戸諸島一体での交流活動を推進します。

- ・ 島民や各種団体、事業者等と連携し、訪れる人々に浦戸ならではの癒しや楽しさを与えられる観光メニューを創出します。
- ・ 浦戸の自然や産業を体験できる場として、防災集団移転跡地の有効活用を図り、交流人口の拡大に努めます。
- ・ 浦戸の魅力である自然景観などを生かし、働きながら非日常の癒しを求められる場の構築に向けて、事業者などと連携して取り組みます。

## ②移住定住支援施策の充実

- ・ 「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成に向けて、コンパクトシティや魅力ある景観など、本市の特性を最大限に生かした住環境の整備に努めます。(再掲)
- ・ 活用可能な空き家については、事業者と連携した空き家バンクの積極的な活用などにより、定住人口増加に向け、あらゆる視点で利活用を促進します。
- ・ 浦戸への移住者の受入環境整備に向けて、国・県などの関係機関に働きかけを行うとともに、空き家の有効活用に努めます。

## ③協働・共創による地域活力の向上

- ・ 市民活動団体が交流する機会の創出や、団体が連携した取組への支援の充実により、市民活動団体の横のつながりを深めます。
- ・ 市民、NPO、企業、金融機関など、多様な主体が参画した協働・共創によるまちづくりを推進します。
- ・ まちの活性化や地域課題の解決に向けて、大学や企業などとの包括的な連携を強化し、幅広い知見や技術などを積極的にまちづくりに取り入れます。

#### (4) 重要業績評価指標 (KPI)

NO	目標	基準値	目標値
1	空き家利活用の件数	1 件 (令和元年度)	100 件 (令和 8 年度) ※5 カ年累計
2	観光客入込数	236.9 万人 (令和元年)	236.9 万人 (令和 8 年)
3	観光消費額 (日帰り単価)	3,920 円 (平成 29 年)	4,100 円 (令和 8 年)
4	観光案内所の利用者数	15,228 人 (令和元年度)	15,228 人 (令和 8 年度)
5	大学や企業などの包括連携協定の 新規締結件数	—	10 件 (令和 8 年度) ※5 カ年累計



## 4. 推進体制と進行管理



## 1) 推進体制

目指す都市像『海と社に育まれる楽しいまち塩竈』の実現に向けて、市民や市民活動団体、事業者、その他本市に関わりのある方などと行政が力を合わせ、「協働・共創によるまちづくり」を進めます。



## 2) 進行管理

本計画を着実に推進していくため、事業の立案（Plan）、事業の実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）といったPDCAサイクルに基づき進行管理を行います。

